

# 専門職能力開発プログラム最終報告書（提案）

2014年3月

特定非営利活動法人日本医学図書館協会  
専門職能力開発委員会

特定非営利活動法人日本医学図書館協会  
専門職能力開発委員会  
委員長：諏訪部直子（杏大医）  
委員： 佐山暁子（東邦大医）  
理事： 酒井由紀子（個人）

特定非営利活動法人日本医学図書館協会  
専門職能力開発プログラム最終報告書（提案）

1. はじめに	2
2. 専門職能力開発プログラム案	3
資料 1 プログラムの全体像	
資料 2 知識とスキル	
資料 3 モデル活動	
資料 4 研修プログラム	
資料 5 認定資格制度	
資料 6 倫理綱領	
3. JMLA コア研修シラバス案	21
3-1. 科目名と担当ワーキンググループメンバー一覧	
3-2. シラバス一覧	
コア 1 JMLA の活動とヘルスサイエンス情報サービス専門職	
コア 2 医学の学問体系と医学用語の基礎知識	
コア 3 医学情報資料論	
コア 4 医学図書館の利用者の特徴とサービス	
コア 5 PubMed/医中誌 Web 検索初級	
コア 6 一般市民への医療・健康情報提供	
3-3. JMLA コア研修 時間割案	
4. 専門職能力開発プログラム移行計画案	37
4-1. 新教育プログラムを平成 28（2016）年スタートと想定したスケジュール案	
4-2. 体制	
5. 活動と検討の経緯	38
6. 資料	39
6-1. 意見への対応・回答	
6-2. 委員・協力者一覧	
6-3. 著作・記録	

## 1. はじめに

インターネットの普及に代表される情報環境の変化や、高齢化を迎えた開発国における雇用市場の変化に伴い、図書館による印刷資料を中心とした資料の収集・組織化・提供という伝統的な役割は、その重要性に変わりはないものの、量的には急速に縮小の一途をたどっている。そのため、かわって図書館員が情報専門職としてより発展的な役割をになうための養成や育成の見直しに関する議論が盛んである。並行して、現職の図書館員が自らを専門職として主張するための専門職団体の動きも活発である。NPO 法人日本医学図書館協会（以下、本会）が認定資格制度として「ヘルスサイエンス情報専門員」の運用を 2004 年に開始すると、国立大学図書館協会中国四国地区協会による「図書・学術情報系専門員資格認定制度」が 2006 年に、日本図書館協会認定司書が 2010 年にと、図書館員の認定資格制度の設立が相次いだ。現在、他の関係団体でも認定資格制度の開設を準備中とのことである。もちろんこれらの認定資格制度は単独ではなく、一定の知識やスキルを取得したり維持したりするための継続教育事業等と組み合わせられ、はじめて専門職能力開発プログラムとして成立するものである。

本会においても、先人たちの努力により 1950 年代からの継続教育事業の蓄積、1964 年からの表彰制度、その後の研究助成、そして 1990 年代から提案されようやく 2004 年に募集が始まった認定資格制度の創設をもって、ヘルスサイエンス分野の統合的な情報専門職能力開発プログラムが成立したと言える。しかしながら、2008 年の本会評議員会答申では、専門職として必要な知識とスキルの定義の不在、教育機会における是正すべき格差の存在といった指摘があった。また、医学・医療における根拠にもとづく医療（Evidence-Based Medicine, EBM）の潮流や、一般市民への健康医学情報の提供などの新しい動きに対応するための研修が体系的に組み込まれていないといった不具合も生じていた。現行プログラムを評価し、抜本的に見直す時期が来ていたのである。

そこで、本会では平成 20 年 10 月に当時の教育・研究委員会および認定資格運営委員会の両委員長および担当理事から成る教育・研究、認定資格事業の連携に関する合同会議を立ち上げ、平成 22 年度からは新たな専門職能力開発プログラムの構築を中期重点事業の筆頭に掲げ、推進してきた。本最終報告書は、2 回の担当組織の変更を経て最後の時限委員会となった専門職能力開発委員会がまとめた、同プログラムの内容と現行プログラムからの移行も含めた提案である。ここにいたるまでには、質問紙調査、本会の総会や分科会での発表や議論、パブリックコメントの募集と回答、プログラム全体や研修カリキュラムを検討する有識者会議、新研修のシラバス開発会議、『医学図書館』誌への執筆、外部の催事での発言と、本会内外での理解を得て本会内で一定程度の合意を形成するために、様々な活動を通じ、構築とフィードバックを反映させる作業を繰り返してきた。担当委員の尽力に加え、多くの関係者のご協力で構築された提案である。一人一人のお名前をあげることはできないが、心から感謝申し上げたい。

本報告書は提案で終わってはならない。ヘルスサイエンス分野の情報専門職のみなさんが、自らの発展のために構築に努力された分、指針として活用していただかなければならない。まだ、新しいプログラムは端緒に着いたばかりである。

平成 26 年 3 月 31 日  
NPO 法人 日本医学図書館協会理事  
（専門職能力開発担当）  
酒井由紀子

## 2. 専門職能力開発プログラム案

以下では、次ページ以降の資料 1～6 の専門職能力開発プログラム（以下、同プログラム）案の内容と構成を説明する。

### (1)プログラムの全体像

同プログラムでは、情報専門職を業務の観点から、まず図書館の一般的業務のできる「基盤レベル」と、ヘルスサイエンスの情報専門職として医学図書館の基本的業務ができる「レベルⅠ」と発展的業務のできる「レベルⅡ」の計 3 つのレベルを設けた。本会では、ヘルスサイエンス分野に特化し、後者の 2 つのレベルに対応した研修および認定資格事業をもって専門職能力開発プログラムとする。認定資格「ヘルスサイエンス情報専門員」の種類は現行のまま「基礎」「中級」「上級」とし、「基礎」はレベルⅠの業務に必要な知識とスキルを学んでいること、「中級」および「上級」はそれぞれ実際に業務ができることを想定している。

### (2)知識とスキル

ヘルスサイエンス情報専門職に必要な知識とスキルは、質問紙調査で確認した 4 グループ、5 分野、11 領域に分け、「基盤レベル」も含めた 3 つのレベル別にそれぞれ定義を設けた。

### (3)モデル活動

モデル活動は、ヘルスサイエンス情報専門職として、「レベルⅠ」「レベルⅡ」のそれぞれにふさわしい活動を例示したものである。情報専門職の目標としてもらうことを想定しているが、ヘルスサイエンス情報専門員が何をできる専門職かを具体的に示す目的もある。新認定資格制度で要件とするが、現場は専門分化していることも多いので、該当レベルのすべてではなく、記載されている活動のうちのいくつかを要件とする提案である。

なお、「基盤レベル」については本プログラムの対象ではないので、モデル活動はあげていない。

### (4)研修プログラム

新研修プログラムは、業務の「レベルⅠ」に必要なヘルスサイエンス分野に特化した情報専門職のための知識とスキルを得るための「コア研修」、実際に業務をしながらスキルアップを目標とする「レベルⅠ」および「レベルⅡ」を想定した「JMLA-CE」および発表機会の「研究会」から成る。「コア研修」についてはすでにシラバス案が作成されていて、第 3 章に詳細が掲載されている。

### (5)認定資格制度

新認定資格制度の新たな要件として、倫理綱領の承諾（基礎、中・上級）、モデル活動の申告、専門職団体での活動のポイント数と種類の増加、英語能力の証明（以上、中・上級）、現行研修プログラムにかかわって「コア研修」（基礎）の受講を提案している。なお、現行プログラムでの認定取得者のうち、中・上級は更新時に新制度の適用となる。「基礎」は永年資格で適用対象とならないため、2 つの異なる要件で認定取得した人が存在することになるが、特別な措置は考えていない。

### (6)倫理綱領

具体的な活動はモデル活動で示すが、その根幹となる専門職にふさわしい行動規範を示した倫理綱領をまとめた。これまで取り上げられてこなかったが、倫理綱領を持ち、遵守を促進することが一般的な専門職団体の要件にもあげられることから作成した。新認定資格制度において、我々はこの倫理綱領を遵守することを承諾する文書を提出することを提案している。

専門職能力開発プログラム：資料1 プログラムの全体像

業務レベル			基盤レベル	レベル I			レベル II		
			図書館の一般的業務	医学図書館の基礎的知識と業務			医学図書館の発展的知識とスキルおよび実務実績		
認定種類・要件 (資料5)			基礎 ①倫理綱領(資料6)の承諾 ②経験2年 ③コア研修修了 ④ポイント40 ⑤司書資格 ※モデル活動の提示は不要						
			中/上級 ①倫理綱領(資料6)の承諾 ②学協会活動 10/20ポイント ③経験 5/10年 ④ポイント 70/100 ⑤モデル活動or資格証明 3/6単位(レベル I or II) ⑥TOEIC 540/730相当						
必要な知識とスキル等			カリキュラム/資格	知識とスキル	モデル活動	研修	知識とスキル	モデル活動	研修
グループ	分野	領域							
0	特:医学図書館員の プロフェッショナリズム	「医学図書館員のための倫理綱領」に沿った行動	司書課程/司書	(資料2)	(資料3・5)	(資料4・5)	(資料2)	(資料3・5)	(資料4・5)
1	A 保健・医療	①医学知識							
	B 保健・医療分野の情報サービス	②社会における医学および保健医療にかかわる制度や政策 ③利用者の情報ニーズと情報提供サービス ④医学情報資源や資料の管理							
2	C 情報サービスの基盤	⑤情報技術							
		⑥教育に必要な知識・技能 ⑦科学的研究に関する理解と自身で研究を進める能力							
3	D ビジネススキル	⑧マネジメントスキル							
		⑨個人の特性							
		⑩外国語							

## 専門職能力開発プログラム：資料 2 知識とスキル

グループ	必要な知識とスキル等		基盤レベル	レベルI	レベルII	
			図書館の一般的業務	医学図書館の 入門的知識とスキルをもとにした基本的業務	医学図書館の発展的業務	
分野	領域	知識とスキル等詳細	知識とスキル等詳細	知識とスキル等詳細		
0	特:医学図書館員の プロフェッショナリズム	「医学図書館員のための倫理綱領」に沿った行動	/	医学図書館員のプロフェッショナリズムの規範としての「医学図書館員のための倫理綱領」の基礎的理解、および関連する日本医学図書館協会の活動に関する基礎知識	「医学図書館員のための倫理綱領」を規範とした、日本医学図書館協会活動への参加等、専門職にふさわしい行動	
1	A) 保健・医療	① 医学知識		学問としての医学の起源および発展に関する基礎知識と、医学用語、学問体系に沿ったMeSH/NLMの構成に関する基礎知識	医学研究の最新動向に関する知識と理解、あるいは医学研究に対する高度な知識と理解	
		② 社会における医学および保健医療にかかわる制度や政策		医療保険、保健・医療機関、医薬品、公衆衛生、介護・高齢者対策、研究助成、教育政策等、医学・医療をとりまく制度や政策と社会情勢に関する基礎知識	保健・医療をとりまく制度や政策と社会情勢の最新動向に関する知識と理解、あるいはそれらに対する高度な理解と知識	
	B) 保健・医療分野の情報サービス	③ 利用者の情報ニーズと情報提供サービス		一般的な図書館利用者の情報ニーズとサービスに関する基礎知識とスキル	保健・医療の専門家および患者や一般市民の医学医療情報ニーズや情報行動に関する基礎知識	医学図書館サービスの最新動向に関する知識と理解、あるいはそれらに対する高度な理解と知識および実践のためのスキル
		④ 医学情報資源や資料の管理		一般的な図書館資料の収集、組織化や管理に関する基礎知識とスキル	専門家向けおよび患者や一般市民向けそれぞれの医学医療情報資源とその管理に関する基礎知識	医学医療情報資源の最新動向に関する知識と理解、あるいはそれらに対する高度な理解と知識および提供のためのスキル
2	C) 情報サービスの基盤	⑤ 情報技術		一般的な図書館等における実務遂行に必要なハードウェア、ソフトウェア、ネットワークに関する知識とスキル	保健・医療分野で特徴的なデータベース、システムやネットワーク環境に即した図書館業務遂行に必要な、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークを利用するための知識とスキル	保健・医療分野で特徴的なデータベース、システムやネットワーク環境に即した図書館業務遂行に必要な、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークを管理・維持、あるいは開発するための知識とスキル
		⑥ 教育に必要な知識・技能		一般的な図書館等における利用案内等、基礎的な利用者教育に必要な知識とスキル	情報リテラシー教育の実施等、一歩踏み込んだ既存の利用者教育プログラムの遂行に必要な知識とスキル	統合的な情報リテラシー教育の実施や、評価に基づく改善、新しいプログラムの開発等、発展的な利用者教育プログラム推進に必要な知識とスキル
		⑦ 科学的研究に関する理解と自身で研究を進める能力			科学研究に関する基礎的理解と、日常業務の改善や発展に必要な調査研究と業務への応用に関する基礎知識とスキル	医学分野の研究デザインや医学論文作成に関する高度な理解と、図書館情報学あるいは医療情報学の調査研究に必要な知識とスキル
3	D) ビジネス遂行能力	⑧ マネジメントスキル		一般的な図書館等の実務遂行に必要な自己管理に関する基礎的な知識とスキル	医学図書館に特徴的な環境(利用者、母体組織、内部組織)の中で実務遂行上必要な管理に関する知識とスキル	医学図書館に特徴的な環境(利用者、母体組織、内部組織)の中で、リーダーとして必要な管理に関する知識とスキル
		⑨ 個人の特性		一般的な図書館等の実務遂行に必要な基本的な個人の資質	医学図書館に特徴的な環境(利用者、母体組織、内部組織)の中で実務遂行上必要な個人の資質	医学図書館に特徴的な環境(利用者、母体組織、内部組織)の中で、リーダーとして実務遂行上必要な個人の資質
		⑩ 外国語	一般的な図書館等の実務遂行に必要な高校卒業程度の英語力	医学図書館に特徴的な英語を始めとする外国語の情報源を扱ったり、外国語を母語とする関係者との最低限のコミュニケーションに必要な大学卒業程度の英語力	医学図書館の発展的な業務や関連の調査研究、外国語を母語とする関係者との直接的コミュニケーションに十分な英語力	

## 専門職能力開発プログラム：資料 2 知識とスキル 解説

- 4 グループ・5 分野にわたる 11 領域について、ヘルスサイエンス分野の情報専門職として必要な知識とスキル等の詳細を 3 つのレベル別に記述した。
- 基盤レベルは「図書館の一般的業務」、レベルⅠは「医学図書館の入門的知識とスキルを基にした基本的業務」、レベルⅡは「医学図書館の発展的業務」を表す。
- 領域は 2009 年 2 月の会員および関係者を対象としたアンケート調査に基づき決定したものである。



専門職能力開発プログラム：資料3 モデル活動

番号	活動カテゴリ	基盤レベル	レベル I	レベル II
		図書館の一般的業務	医学図書館の基本的業務	医学図書館の発展的業務
1	パブリックサービス		情報提供サービス	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学・関連分野の閲覧業務</li> <li>・利用者の顕在的ニーズを把握する<sup>2)</sup></li> <li>・利用者からのフィードバックをサービスに反映させる<sup>2)</sup></li> <li>・資料を ILL サービスにより提供する<sup>2)</sup></li> <li>・案内、マニュアルを整備、配布する<sup>1)</sup></li> <li>・館内表示を配置する<sup>1)</sup></li> <li>・ICT を応用したサービスの動向について、情報収集を行う<sup>4)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文作成のコンシェルジュを務める</li> <li>・保健・医療分野のレビュー作成に参画する</li> <li>・利用者の顕在的・潜在的ニーズを把握する<sup>2)</sup></li> <li>・所属組織の目的、利用者のニーズに合致したサービスの目的と内容を明文化し、具体的な計画をたてる<sup>1)</sup></li> <li>・利用者ニーズ、医学図書館の目的、法律に沿った利用規則を策定する<sup>1)</sup></li> <li>・ICT を使った新しいサービスを提案、実施する<sup>4)</sup></li> <li>・クリニカルライブラリアンを務める<sup>4)</sup></li> <li>・リエゾンライブラリアンを務める<sup>4)</sup></li> </ul>
			レファレンスサービス	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健・医療分野の基本的なレファレンスツールを使う</li> <li>・クイック・レファレンス<sup>1)</sup></li> <li>・資料の所在調査<sup>1)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査支援<sup>1)</sup></li> <li>・情報処理、加工（翻訳、抄録、SDI、CA など）<sup>1)</sup></li> <li>・市民を対象としたレファレンスを行う<sup>4)</sup></li> </ul>
			電子リソースの管理・提供	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブページ更新</li> <li>・電子リソース管理ツールの技術や動向を把握する<sup>4)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子リソース管理ツールを評価し、導入や切替を提案する<sup>4)</sup></li> </ul>
			情報提供サービスのためのデータベース利用	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献・情報検索の代行や支援<sup>1)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬情報データベースを使う（例：Micromedex）</li> <li>・診療ガイドラインのための文献検索を行う</li> </ul>
			館内の環境整備 <sup>1)</sup>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人利用者、障害者への配慮をする<sup>1)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスに合わせた施設・設備の基本計画を作成する<sup>1)</sup></li> </ul>
図書館間協力（サービス面） <sup>1)</sup>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各館の資源を共有する<sup>1)</sup></li> <li>・ネットワーク活動を活用し、利用者に等しくサービス提供する<sup>1)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なレベル、領域のネットワークに参加し活動の計画・推進に参加する<sup>1)</sup></li> </ul>			

2	テクニカルサービス	所属組織支援サービス <sup>4)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究業績データの収集・入力等の実務を行う<sup>4)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究業績管理システムの開発、管理、評価、導入の提案、導入を行う<sup>4)</sup></li> </ul>
		広報 <sup>4)</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自館の資料、電子リソース、サービスを理解し効果的な広報をする<sup>4)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学図書館のブランディングを行う<sup>4)</sup></li> <li>広報活動の実施と評価を行う<sup>4)</sup></li> </ul>
		資格		
		電子リソース契約業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約形態、パッケージの種類等、購読の判断に必要な基本情報を収集する<sup>4)</sup></li> <li>電子ジャーナル利用統計を集計する<sup>4)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のニーズにあった電子リソースを選定し、価格交渉を行って一定の予算内で契約を行う<sup>3)</sup></li> <li>利用統計等から契約対象の見直しを行う<sup>3)</sup></li> <li>契約書に沿ったアクセス提供を維持する<sup>3)</sup></li> <li>接続トラブルの問題を見極め迅速に解決する<sup>3)</sup></li> <li>代理店、出版社、コンソーシアム団体などと交渉する<sup>4)</sup></li> <li>コンソーシアム参加の判断を行う<sup>4)</sup></li> <li>契約書の内容を理解している<sup>4)</sup></li> </ul>
		主題分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学関連分野資料の、主題目録作業（件名や分類付与）を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学論文の件名付与（MeSH など）の作業を行う</li> </ul>
		選書	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学生、医学研究者、医療専門家向けの選書を行う<sup>3)</sup></li> <li>収集方針に沿って資料の選択・受入を行う<sup>1)</sup></li> <li>資料の選択・受入に必要な資料を備え、スクリーニングする<sup>1)</sup></li> <li>利用者のニーズを把握する<sup>2)</sup></li> <li>出版・メディアについて情報収集する<sup>2)</sup></li> <li>電子資料の提供について検討する<sup>2)</sup></li> <li>自館の蔵書構築方針、選書方針を把握する<sup>4)</sup></li> <li>自館が取り扱う主題の基本図書・雑誌を把握する<sup>4)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般向け健康医療情報の選書を行う</li> <li>明文化した収集・除籍方針を作成する<sup>2)</sup></li> <li>蔵書構築、資料の特性、利用者のニーズ、予算等を考慮した選書を行う<sup>2)</sup>（or 選書担当部門に提案する<sup>4)</sup>）</li> <li>図書館間協力としての分担収集<sup>2)</sup></li> <li>保存の方針を検討する<sup>2)</sup></li> <li>組織内の学位論文、診療記録、歴史資料、その他を収集・処理・提供する<sup>1)</sup></li> </ul>
		目録	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合目録へ所蔵登録する<sup>2)</sup></li> <li>専門書の分類をする<sup>4)</sup></li> <li>総合目録へ書誌を新規登録する<sup>4)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的な検索が可能な目録を整備する<sup>1)</sup></li> </ul>
		資料管理 <sup>1)</sup>		

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・製本、書架整頓、資料点検などにより環境を整える<sup>1)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学図書館資料全体を把握し、質の維持に責任をもつ<sup>1)</sup></li> <li>・定期的な資料の見直しや、統計を資料の質の維持にいかす<sup>1)</sup></li> </ul>
		図書館間協力（資料面） <sup>1)</sup>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・重複資料を交換する<sup>2)</sup></li> <li>・分担収集・保存を行う<sup>1)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学図書館ネットワークの分担収集の範囲を定義する<sup>1)</sup></li> </ul>
		資格	
3	マネジメント	計画立案	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織機構における医学図書館の位置・役割を認識する<sup>2)</sup></li> <li>・担当業務の計画、実行、報告、評価を定期的実施し、改善を行う<sup>3)</sup></li> <li>・医学図書館の運営方針、規程などに基づいた業務計画を実行する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長・短期計画をたてて、方針を明文化する<sup>2)</sup></li> <li>・医学図書館の目標や方針を、母体組織の目的や計画と調和して明文化する<sup>3)</sup></li> <li>・医学図書館規程において、利用者ニーズを反映した管理運営方針を明らかにする<sup>1)</sup></li> <li>・運営について検討する委員会を設置する<sup>1)</sup></li> <li>・医学図書館の担当業務内容・範囲を記載した業務規程を作成する<sup>1)</sup></li> <li>・内部組織、業務内容の点検を行い、目標に対する評価の仕組みを設ける<sup>1)</sup></li> </ul>
		PR	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の広報資料の更新をしてPRする<sup>3)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学図書館の役割や重要性について館外からの理解を得る<sup>2)</sup></li> <li>・新規広報計画を立て、実行する<sup>3)</sup></li> <li>・医学図書館のブランディングを行う<sup>4)</sup></li> </ul>
		人材配置 <sup>2)</sup>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分担、人材配置に基づいて適切に業務を行う</li> <li>・業務改善のため、業務執行に対して評価を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の条件のもとに、人事部門と調整して、募集、選考、採用をし、必要な人材を確保する<sup>3)</sup></li> <li>・サービスにみあった適切な人材活用を行う<sup>2)</sup></li> <li>・人材の評価、研修、モチベーション向上を行う<sup>3)</sup></li> <li>・職員を質・量ともに確保し、適正に配置する<sup>1)</sup></li> <li>・管理者は、職員の教育研修、調査研究の機会と援助を与える<sup>1)</sup></li> </ul>
		予算管理	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算執行計画に基づき執行し、記録を残す<sup>1)</sup></li> <li>・サービス実績と予算執行を評価するために必要な統計データを集計し、分析する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画に基づいて、予算編成を行う<sup>1)</sup></li> <li>・所属組織に対して医学図書館活動の重要性を主張し、必要な財源を獲得する<sup>1)</sup></li> </ul>		

4	情報技術		<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス実績と予算執行を評価し、今後のサービス計画にいかす<sup>1)</sup></li> <li>医学図書館サービスのために外部資金を獲得する</li> </ul>
		施設・備品管理 <sup>1)</sup>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ関連機器、通信機器など必要な機器備品を整える<sup>1)</sup></li> <li>効果的な館内表示計画を立てる<sup>4)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用、収蔵、業務のためのスペースを、必要面積、配置を考慮して決定する<sup>1)</sup></li> <li>利用上、業務上で快適性、安全性を保つための設備を整える<sup>1)</sup></li> </ul>
		連携 <sup>4)</sup>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>関連部署との連携に必要な実務を担当する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属組織と医学図書館の目的と計画を達成するために、関連部署と連携する<sup>4)</sup></li> </ul>
		資格	
		電子リソースの管理	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブページ更新</li> <li>電子リソース利用のための情報環境を理解し、情報技術部門と連携して利用支援を行う<sup>3)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブページの運営方針を決定する</li> <li>ウェブページの評価を行う<sup>4)</sup></li> <li>データベース、ウェブページ、ネットワーク、医学図書館システム、機関リポジトリ、リンクリゾルバ等のシステム開発、維持管理を行う</li> </ul>
		ソフトウェアの利用の環境整備 <sup>1)</sup>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェアのインストール</li> <li>ソフトウェアの高度な機能を使う</li> <li>外部の多様な電子情報が提供できる環境を用意する<sup>1)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハード・ソフトウェアを整備する<sup>2)</sup></li> <li>コンピュータの利用状況を点検し、現状の評価検討を行う<sup>1)</sup></li> <li>研究者と協力し、コンピュータ利用に関する研究開発、教育に参加する<sup>1)</sup></li> </ul>		
図書館システム <sup>1)</sup>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館システムを利用して円滑に業務を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子ネットワークを利用して業務を効率的なものにする<sup>2)</sup></li> <li>図書館システムを有効に利用してサービス向上に努める<sup>1)</sup></li> </ul>		
資格			
<ul style="list-style-type: none"> <li>マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS)</li> <li>情報技術者試験レベル I (IT パスポート試験)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報処理技術者試験レベル 2 以上</li> </ul>		

5	研究開発	研究調査を行う	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務にかかわる事例報告や業務分析等の調査研究を行い、口頭や論文で発表する</li> <li>・共同研究・調査を実施する<sup>2)</sup></li> <li>・利用者の声を反映して、サービスの改善を行う<sup>3)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館情報学分野、医療情報学分野の論文執筆や研究口頭発表を行う</li> <li>・業務に必要な調査研究を遂行する</li> <li>・図書館情報学分野の論文からエビデンスを抽出して実務に応用する</li> <li>・医学図書館サービス評価やニーズ調査のために利用者調査を実施し、サービスの改善や開発に役立てる<sup>3)</sup></li> </ul>
		発表などを行い共有・情報交換する <sup>2)</sup>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを報告・発表し共有する<sup>2)</sup></li> <li>・他の図書館員と情報交換する<sup>2)</sup></li> </ul>	・自発的・継続的な学習を行い、専門知識・技術の習得に努める <sup>2)</sup>
		資格	
・修士号取得	・博士号取得、博士課程修了/単位取得退学		
6	教育	講師を務める	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションや図書館ツアーで基本的な医学図書館の使い方を教える<sup>3)</sup></li> <li>・セミナー等で利用者にデータベースや文献管理ソフトウェアの概要・使い方を説明する</li> <li>・情報リテラシーを向上させる利用者教育を行う<sup>2)</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EBMの概念に基づく文献検索概論を教える</li> <li>・保健・医療分野の情報リテラシー教育を行う</li> <li>・情報・コンピュータの利用教育を行う<sup>1)</sup></li> <li>・計画的な教育プログラムを用意する<sup>1)</sup></li> <li>・教育プログラムの評価を行う<sup>4)</sup></li> <li>・保健・医療分野の正式カリキュラムの情報解決型の科目に協力参加する<sup>3)</sup></li> <li>・教材を開発する<sup>1)</sup></li> <li>・医学図書館員向けの各種公式研修プログラムで、講師を務める</li> </ul>
		論文作成支援	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文作成コンシェルジュを務める</li> <li>・学会発表・論文作成を支援する<sup>1)</sup></li> </ul>
		資格	

7	研究支援	医学研究分析	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>EBM の概念を習得する<sup>4)</sup></li> <li>医学論文を記事の種類や掲載雑誌の影響度からフィルタリングする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学論文の批判的吟味を行う</li> <li>医学論文を研究デザインやエビデンスの高さからフィルタリングする</li> <li>保健・医療分野のレビュー作成に参画する</li> <li>システマティックレビューや発展的な情報リテラシー教育で医学論文を活用する</li> </ul>
		診療ガイドラインの作成に参画	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>診療ガイドライン作成委員会で研究デザインやエビデンスレベルの評価を行う</li> <li>システマティックレビューを行う</li> </ul>
		論文作成支援	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>論文作成コンシェルジュを務める</li> </ul>
資格			

## 専門職能力開発プログラム：資料3 モデル活動 解説

- ヘルスサイエンス分野の情報専門職能力を用いたモデル活動（第82回総会分科会では「コンピテンシー」と称していた）として、レベル別に例示したものである。
- モデル活動を定めた目的は、以下の三つである。
  - 1) ヘルスサイエンス分野の情報専門職を目指す人の、具体的な活動の目標設定としてもらう。
  - 2) 本会で提供する継続教育コースの科目設定の参考に供する。
  - 3) 本会の認定資格制度の要件の一部とし、認定資格を取得したヘルスサイエンス分野の情報専門職が、「できること」を示す材料としてもらう。

\*なお、専門職として必要な自己研鑽等の活動については、策定中の「医学図書館員の倫理綱領（案）」およびヘルスサイエンス情報専門員の専門職学協会活動のポイント表に含まれているので、あえてここでは示さない。「倫理綱領」は、専門職能力開発プログラムのもとに見直される認定資格制度では、その内容を承認し実行することを宣誓する署名を要件とすることが提案されている。また、専門職学協会活動のポイントはすでに中・上級で必須となっている。

- 表中の「活動カテゴリ」は、業務を中心とした専門職活動を便宜的に独自に分類したもので、資料1プログラム概略で示した知識・スキル等の「分野」あるいは「領域」とは異なる。モデル活動は特定の分野・領域のみに当てはめることができず、複数の知識・スキル等を複合的に用い、初めて可能になるためである。
- モデル活動は、「レベルⅠ」と「レベルⅡ」に分けて医学図書館の業務としてできることを例示。「基盤レベル」は研修を受けただけで若干の要件とともにヘルスサイエンス情報専門員の「基礎」資格の認定をするので、実際の活動は提示しない。
- 本「モデル活動 一覧」の内容は、環境に応じた専門職の具体的な活動の変化に伴い、継続的な見直しが必要である。専門職能力開発委員会は時限的な設置委員会であるため、認定資格運営委員会で「ヘルスサイエンス情報専門員」申請時に提出される新たなモデル活動の事例を蓄積し、随時追加を行うこと、また、削除や変更についても最低2年に1回程度の見直しを同委員会で行うことを、本委員会から提案したい。

### 2. 参考とした資料

- 1) 医学図書館のガイドライン. 日本医学図書館協会, 1994.
- 2) 21世紀の医学図書館. 日本医学図書館協会, 1996
- 3) Position descriptions in health sciences libraries: traditional and emerging roles. MLA, 2012. (MLA Docket #16)
- 4) Introduction to health sciences librarianship. M. Sandra Wood (ed). New York, N.Y.: Haworth Press, 2008.

専門職能力開発プログラム: 資料4 研修プログラム

グループ	必要な知識とスキル等		基盤レベル		レベルI		レベルII	
	分野	領域	研修	カリキュラム	研修	カリキュラム	研修	カリキュラム
0	特:医学図書館員の プロフェッショナリズム	「医学図書館員のための倫理綱 領」に沿った行動						
1	A)保健・医療	① 医学知識	司書課程		JMLAコア	コア1:JMLAの活動とヘルスサイエンス情 報サービス専門職  コア2:医学の学問体系と医学用語の基礎 知識  コア3:医学情報資料論  コア4:医学図書館の利用者の特徴とサー ビス  コア5:PubMed/医中誌Web検索初級  コア6:一般市民への医療・健康情報提供	例)  A) 保健・医療 ・EBMと図書館員の役割 ・EBMのための批判的吟味 ・医学史と古医書セミナー ・医学研究アップデート ・医学系特許 ・生命倫理、研究倫理  B) 保健・医療分野の情報サービス ・医学図書館利用者の情報行動 ・医学図書館員のための臨床支援ツール ・電子リソースの契約と管理 ・PubMed/医中誌Web中級編 ・PubMed/医中誌Web上級編 ・医薬品情報の探し方 ・出版倫理  C) 情報サービスの基盤 ・統計学 ・研究評価 ・医学図書館における教育プログラム実践 ワークショップ ・文献管理ツール ・著作権 ・看護研究と情報源 ・医学図書館員のための調査研究  D) ビジネス遂行能力 ・医学図書館のマーケティング戦略 ・医学図書館のマネジメント ・医学図書館のサービス評価 ・医学図書館における英会話セミナー	
		② 医学研究、医療政策等、医 療を取り巻く情勢、問題点に 関する理解						
	B)保健・医療 分野の情報サービス	③ 利用者の情報ニーズと情報 提供サービス						
		④ 医学情報資源や資料の管理						
2	C)情報サービスの基 盤	⑤ 情報技術				JMLA-CE JMLA研究会		
		⑥ 教育に必要な知識・技能						
		⑦ 科学的研究に関する理解と 自身で研究を進める能力						
3	D) ビジネス遂行能力	⑧ マネジメントスキル						
		⑨ 個人の特性						
		⑩ 外国語						



## 専門職能力開発プログラム：資料 4 研修プログラム 解説

### I. 方針

- 基盤レベルの研修は本会では実施しない。
- 保健・医療分野に特化した研修を中心に CE として提供する。
- ビジネス遂行能力は単独では取り上げない。
- 個別の知識・スキルをそのまま科目にするのではなく、医学図書館業務に応用した科目を設置する。

### II. 研修機会

#### 1. JMLA コア研修

対象：ヘルスサイエンス分野の情報サービスの基礎を学びたい方  
(他分野からの異動、転職含む)

目的：ヘルスサイエンス図書館特有の基礎知識・スキルを習得する

内容：医学図書館の基礎レベルに相当する 6 科目 (資料 4:研修プログラム案参照)

機会：年 1 回独立、夏季、開催地は検討中

方式：集合形式、将来的に個別科目での実施や遠隔・地区会での実施も考慮

#### 2. JMLA-CE コース

対象：ヘルスサイエンス情報サービスに携わり、専門性を高めたい方

目的：ヘルスサイエンス図書館特有のモデル活動 (レベル I,II) 実現のための知識とスキル等の習得およびビジネス遂行能力の訓練

内容：定番科目および最新動向に関する科目

機会：総会前日、研究会前日・後日、地区会当日

方式：講義・演習 (ビジネス遂行能力を用いた相互形式を推奨) + 将来的に遠隔も考慮

#### 3. JMLA 研究会

対象：ヘルスサイエンス情報サービスに携わる方・目指す方

目的：図書館員による調査研究・エビデンスベーストプラクティスの推進、最新知識習得

内容：自由テーマの研究発表および最新トピックのシンポジウム

機会：年 1 回独立、開催地は検討中

方式：集合形式

\*ビジネス遂行能力 (グループ 3) は単独の教育プログラムは提供しないが、JMLA コア、JMLA-CE コースなど各種研修の中で講義・演習の形式に取り込む工夫を推奨する。

### III. JMLA コア研修と JMLA-CE コースのカリキュラム

#### 1. JMLA コア研修

概要：

- グループ 0～1 を範囲とする 6 科目
- 知識・スキルに対応する応用までを含める
- グループ 2～3 は必要に応じて積極的に取り入れる

科目：

コア 1 JMLA の活動とヘルスサイエンス情報サービス専門職

コア 2 医学の学問体系と医学用語の基礎知識

コア 3 医学情報資料論

コア 4 医学図書館の利用者の特徴とサービス

コア 5 PubMed/医中誌 Web 検索初級

コア 6 一般市民への医療・健康情報提供

参考

原案では、以下の 14 科目をコア科目としていた

- ①-1 日本医学図書館協会の活動
- ①-1 からだのしくみ
- ①-2 医学とは
- ①-3 MeSH/NLMC と医学の学問体系
- ②-1 わが国の保健・医療
- ②-2 医薬品の知識
- ②-3 保健・医療従事者の教育制度
- ③-1 医学図書館利用者の情報行動
- ③-2 医学図書館サービス
- ③-3 文献検索の基礎
- ③-4 一般市民への医学・医療情報提供
- ④-1 医学情報資源：雑誌の歴史
- ④-2 医学情報資源：電子情報資源とオープンアクセス
- ④-3 医学情報資源の組織化

#### 2. JMLA-CE コース

概要：

- グループ 0～3 を網羅する科目が必要
- 知識・スキルに対応する応用までを含める

科目例：

定番科目            PubMed/医中誌 Web 中級・上級  
EBM セミナー  
関連分野の利用者の特徴と情報資源（看護学、歯学、薬学）  
ヘルスサイエンス分野の情報リテラシー教育  
CHI サービス上級（選書・レファレンス訓練）  
医学図書館における英会話  
医学論文の読み方

医学図書館の経営  
医史学と特有の情報資源

最新動向

医学研究アップデート  
医学教育アップデート  
保健医療政策アップデート  
医学図書館サービスアップデート  
米国の医学図書館

## 専門職能力開発プログラム：資料 5 認定資格制度

### I 要件

#### 1. 基礎要件

- 1) 司書資格
- 2) 倫理綱領に対する宣誓の署名(※新規)
- 3) 5年以内に合計2年間のヘルスサイエンス情報関連機関の実務経験
- 4) JMLA コア研修受講 (※現在の基礎研修会や研究会+継続コースとは異なる内容)
- 5) ポイント数 過去3年間で40ポイント以上

#### 2. 中級要件

- 1) 基礎資格
- 2) 倫理綱領に対する宣誓の署名(※新規)
- 3) 5年以上の実務経験
- 4) ポイント数 過去5年間に70ポイント以上(更新は50ポイント)
- 5) 専門職団体での活動10ポイント以上(※現行の5ポイントから増加)
- 6) レベルIまたはIIのモデル活動または関連する資格証明3単位(※新規)
- 7) TOEIC540点相当(※新規)

#### 3. 上級(新規)

- 1) 基礎または中級資格
- 2) 倫理綱領に対する宣誓の署名(※新規)
- 3) 10年以上の実務経験
- 4) ポイント数 過去5年間に100ポイント以上(更新は70ポイント)
- 5) 専門職団体での活動20ポイント以上、JMLAに関する活動5ポイント以上含む(※現行の10ポイントから増加、JMLAポイント要件を新設)
- 6) レベルIまたはIIのモデル活動または関連する資格証明6単位(※新規)
- 7) TOEIC730点相当(※新規)

### II 特記

- ・現在の「基礎」は、本案と要件は異なるが、永年認定なのでそのまま残る。
- ・現在の認定取得者に改めて新研修プログラム参加の義務はない。
- ・モデル活動の単位数は、レベルIは1項目1単位、レベルIIは1項目2単位とする。

## 専門職能力開発プログラム：資料 6 倫理綱領（案）

### 医学図書館員のための倫理綱領（案）

#### JMLA Code of Ethics for Health Sciences Librarianship

この綱領は、保健・医療その他関連領域の情報サービスに携わる専門職（以下、医学図書館員）の倫理的規範の枠組みを規定するものである。

医学図書館員は、医療、教育、研究における意思決定に情報が必要であることを認識する。また、情報に基づく意思決定を保証するために社会、利用者、組織に奉仕し、それにより保健・医療その他関連領域の進歩発展に寄与する。

#### 社会への奉仕

- ・医学図書館員は、医学・医療の専門家および一般市民が保健・医療その他関連領域の情報にアクセスし、より広く高度な知識を習得することを推進し、情報に基づく意思決定を促進する環境を創出して維持する。
- ・医学図書館員は、利用者が情報へアクセスする機会の尊重と、著作者の権利の尊重に努める。

#### 利用者への奉仕

- ・医学図書館員は、利用者を差別せず、情報ニーズに応える。
- ・医学図書館員は、プライバシーを尊重し、職務上知り得た利用者の秘密を守る。
- ・医学図書館員は、入手しうる限りで最善の情報を利用者に提供することを保証する。

#### 組織への奉仕

- ・医学図書館員は、所属する組織の情報ニーズや目的に合致した情報システムとサービスの開発や維持のために、リーダーシップと専門性を発揮する。

#### 資料への責務

- ・医学図書館員は、個人的信条によらず専門的知識と的確な判断とに基づいて、中立な立場で資料の収集、組織、保存、提供に努める。

#### 専門職としての規範的行動

- ・医学図書館員は、専門職としての哲学や理想を掲げ発展させる。
- ・医学図書館員は、専門職としての知識技能の向上と共有に努め、その水準の発展に邁進する。
- ・医学図書館員は、礼儀と尊重をもって職業上の人間関係を良好に保つ。
- ・医学図書館員は、常に専門職としての誇りと自覚をもち、高い品位を保つ。
- ・医学図書館員は、専門職として研鑽に努める。
- ・医学図書館員は、所属する組織の倫理的規範及び法的・社会的規範に沿って行動する。

## 専門職能力開発プログラム：資料 6 倫理綱領（案） 解説

- 医学図書館の専門職能団体として、専門職能力開発プログラムとともに倫理綱領を策定する。これは資料 1:プログラム概略のグループ 0（分野：特：医学図書館員のプロフェッショナリズム）に該当するものである。
- 当委員会では、資格認定申請の際、専門職として期待される行動規範である「倫理綱領」を承諾することを、認定要件に追加することを提案する。
- この倫理綱領案は、MLA(2011)を主とし、EAHIL(2002)、IFLA(2010)、ALA(2008)、JLA(1980)の倫理綱領も参考にして作成した。
- 倫理綱領を定めることは 2012 年度の事業計画として承認を得ている決定事項である。医師には「医の倫理綱領（日本医師会，2000）」看護師には「看護者の倫理綱領（日本看護協会，2002）」など、医療従事者はそれぞれの業種で倫理綱領が定められているように、倫理綱領を持つことは専門職能団体として成立するための基本的な前提条件である。

### 3. JMLA コア研修シラバス案

コア研修は、ヘルスサイエンス分野の情報サービスにおいて必須となる基礎的な知識に特化した新しい研修プログラムで、6 科目で構成されている。従来の「医学図書館員基礎研修会」では、図書館の基本的な知識やサービスに終始した科目もあり、必ずしもヘルスサイエンス分野の情報について学びたいというニーズに十分応えるものではなかったという反省から、カリキュラムを大幅に見直し再編成したものである。

これらの科目のシラバス作成にあたっては、11 人のワーキンググループを編成し、2 章の資料4 (研修プログラム)をもとに約半年間の検討を重ねた。

#### 3-1.科目名と担当ワーキンググループメンバー一覧

科目	科目名	メンバー
コア 1	JMLA の活動とヘルスサイエンス情報サービス専門職	坪内政義 (愛知医科大学医学情報センター (図書館))
		酒井由紀子 (慶應義塾大学文学部)
コア 2	医学の学問体系と医学用語の基礎知識	阿部信一 (東京慈恵会医科大学学術情報センター)
		小嶋智美 (日本医学図書館協会 正会員個人)
		山田久夫 (関西医科大学)
コア 3	医学情報資料論	山口直比古 (日本医学図書館協会 正会員個人)
コア 4	医学図書館の利用者の特徴とサービス	鈴木孝明 (奈良県立医科大学附属図書館)
		南泰樹 (聖マリアンナ医科大学医学情報センター)
コア 5	PubMed/医中誌 Web 検索初級	山口直比古 (日本医学図書館協会 正会員個人)
		笹谷裕子 (杏林大学医学図書館)
コア 6	一般市民への医療・健康情報提供	市川美智子 (愛知医科大学医学情報センター (図書館))
		岡田信恵 (藤田学園医学・保健衛生学図書館)

### 3-2. シラバス一覧

科目名	【コア1】 JMLA の活動とヘルスサイエンス情報サービス専門職
時間	90 分
科目概要	JMLA の活動と自らの業務との関わりをとおして、ヘルスサイエンス情報サービス専門職の専門性を学ぶ。
到達目標	専門職としてヘルスサイエンス情報サービスを遂行し発展させるために、ヘルスサイエンス情報サービス専門職の専門性とは何かを理解し、自らの業務と JMLA 活動を基盤としたキャリアプランを設定する。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「医学図書館員のための倫理綱領」を理解し、ヘルスサイエンス情報サービス専門職の規範を説明できる。</li> <li>2. 日本のヘルスサイエンス情報サービスの現況と課題を説明できる。</li> <li>3. 日本のヘルスサイエンス情報サービス機関と専門職の現況を説明できる。</li> <li>4. JMLA の活動と社会貢献について説明できる。</li> <li>5. 自らの日常業務と関連づけて JMLA の存在意義を説明できる。</li> <li>6. ヘルスサイエンス情報サービス専門職として、自らのキャリアプランを説明できる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. 情報専門職の倫理 [15 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) JMLA「医学図書館員のための倫理綱領」を読む。</li> </ol> <p>B. 日本の現状と課題 [30 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ヘルスサイエンス情報サービスを概観する。</li> <li>2) ヘルスサイエンス情報サービスの資源を復習する。</li> <li>3) ヘルスサイエンス情報サービス機関と専門職の種類を知る。</li> <li>4) 近接する専門職(医療秘書, 医書出版など), 医療機関の組織・構成, 等の関連知識を得る。</li> </ol> <p>C. JMLA 活動と会員の関わり [30 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 沿革と NPO 法人化の意義を理解する。</li> <li>2) 委員会活動と会員の参画状況を把握する。</li> <li>3) 会員の権利と義務を整理する。</li> <li>4) 教育・研修プログラムと認定資格(JHIP)を知る。</li> </ol> <p>D. まとめ [15 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自らの業務の専門性と JMLA 活動のかかわりを考える。</li> <li>2) キャリア目標を立て、キャリアプランとそのための行動計画の概要を考える。</li> </ol>
課題例	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自らのキャリア目標, キャリアプラン, そのための行動計画を作成し, お互いに発表して議論する。</li> </ol>



参考資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 津田良成. 医学情報を担当する今の図書館員諸君へ: 今後の厳しい状況に取り組むために. (JMLA 叢書;1). 東京: 日本医学図書館協会; 2000.</li> <li>2) 特定非営利活動法人日本医学図書館協会「要覧」2013年版.</li> <li>3) 特定非営利活動法人日本医学図書館協会 専門職能力開発委員会. 専門職能力開発プログラム最終報告書. 2014.</li> <li>4) 鈴木正紀. 進化をつづけるライブラリアンになるために. 情報の科学と技術. 2011; 61(4): 146-153.</li> <li>5) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について(審議のまとめ): 変革する大学にあって求められる大学図書館像. 2010.</li> <li>6) 加藤信哉. 大学図書館員の育成. 名古屋高等教育研究. 2013; 13: 71-86.</li> <li>7) 橋本鉦市編著. 専門職養成の日本的構造. 東京: 玉川大学出版部; 2009.</li> </ol>
------	--

科目名	<b>【コア 2】</b> 医学の学問体系と医学用語の基礎知識
時間	180 分
科目概要	医学の起源および学問体系, 医学用語および MeSH/NLMC の基礎知識を解説する。
到達目標	学問としての医学の起源と発展についての梗概が理解できる。 学問体系や診療科目に沿った医学用語と Medical Subject Headings (以下, MeSH)/National Library of Medicine Classification (以下, NLMC) を実務で用いるための基本となる知識や技術, 活用方法が理解できる。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>サイエンスとしての医学, および医療の起源の梗概を説明できる。</li> <li>基礎及び臨床科目や病院の診療科目の概要を説明できる。</li> <li>医学用語の構成要素を説明できる。</li> <li>基本的な医学用語・解剖学用語を理解し, 実務で用いることができる。</li> <li>MeSH/NLMC の基本構成と索引方法を理解し, 実務で用いることができる。</li> <li>選書・分類・レファレンス等主題分析の必要な場面において, MeSH/NLMC を適切かつ効率的に活用することができる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. 医学概論 [40 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医学・医療の起源と位置づけ(年表史ではなく, 項目 B・C・D を意識した梗概)</li> <li>人体のなりたち</li> <li>解剖・生理の基礎知識(運動器系, 呼吸器系, 循環器系, 消化器系, 神経系, 内分泌系, 泌尿・生殖器系, 感覚器系を構成する器官とその働き)</li> </ol> <p>B. 医学用語の基礎知識 [20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>用語の特徴・規則性・一般用語と学術用語の対照</li> <li>診療科目名・医学の細分科目名</li> <li>代表的な疾病名・症状名・化学物質名</li> </ol> <p>C. MeSH/NLMC [40 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>なりたちと構成・ルール等の概説</li> <li>項目 B・C との対照関係</li> <li>医学用語シソーラスと MeSH の相違点</li> <li>MeSH/NLMC の活用法</li> </ol> <p>D. まとめと演習 [40 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医学図書館の現場を想定したケーススタディ ※以下, 実習例 <ol style="list-style-type: none"> <li>図書の奥付・序文・目次から NLMC/MeSH を考える(選書・分類における主題分析)</li> <li>利用者からの質問内容に該当する NLMC/MeSH を考える(レファレンスにおける質問分析)</li> <li>論文に付された MeSH のみを見て, どのようなことが書かれているのかをグループで検討した後に実際の論文に目を通す。また NLMC と MeSH という 2 種の主題付与ツールの特性や実務で</li> </ol> </li> </ol>

	の活用場面について討議する(文献調査業務技術等の向上)。
事前課題	所属組織(もしくは身近にある総合病院)の診療科, 医科大学等医学の教育機関に所属する場合は基礎医学および臨床医学に関わる設置科目名を書き出す。研修当日は, 記載したものを持参すること。
参考資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 後藤由夫. 医学概論. 東京:文光堂;2004.</li> <li>2) Bynum WF, Bynum H (鈴木晃仁, 鈴木実佳訳). Medicine: 医学を変えた 70 の発見. 東京:医学書院;2012.</li> <li>3) Dobson M (小林力訳). Disease: 人類を襲った 30 の病魔. 東京: 医学書院;2010.</li> <li>4) 百島祐貴. ペニシリンはクシャミが生んだ大発見: 医学おもしろ物語 25 話(平凡社新書 508). 東京:平凡社;2010.</li> <li>5) Drake RL et al (塩田浩平訳). グレイ解剖学アトラス. 東京:エルゼビア・ジャパン;2008.</li> <li>6) Netter FH (相磯貞和訳). ネット解剖学アトラス. 原著第 5 版. 東京:南江堂;2011.</li> <li>7) Martini FH, Timmons MJ, McKinley PM et al. カラー人体解剖学: 構造と機能: ミクロからマクロまで. 新潟: 西村書店;2003.</li> <li>8) 坂井建雄ほか. カラー図解人体の正常構造と機能: 全 10 巻縮刷版. 改訂第 2 版. 東京: 日本医事新報社;2012.</li> <li>9) 後藤昇, 楊箏隆哉. しくみが見える体の図鑑. 東京: エクスナレッジ; 2012.</li> <li>10) Smith GL, Davis PE (裏田武夫訳). プログラム学習による医学用語の学び方. 東京: 医学書院;1985.</li> <li>11) Dennerll JT. Medical Terminology: A Programmed System Approach, 10<sup>th</sup> ed. Stamford, Conn.: Cengage Learning;2009. (第 4 版は『プログラム学習による医学用語の学び方』の原著)</li> <li>12) 津波古澄子, Zoboski M. 基本の 101 語を組み合わせて学ぶ医学英語: 分解方式で簡単! 臨床現場で活用できる!. 東京: 日本看護協会出版会;2011.</li> <li>13) 藤枝宏壽ほか. これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現. 第 3 版. 東京: メジカルビュー社;2013.</li> <li>14) 日本解剖学会. 解剖学用語. 改訂 13 版. 東京: 医学書院;2007.</li> <li>15) 日本医学会医学用語管理委員会編. 日本医学会医学用語辞典: 英和. 第 3 版. 東京: 南山堂;2007.</li> <li>16) 独立行政法人科学技術振興機構. 日化辞 Web[internet]. <a href="http://nikkajiweb.jst.go.jp/">http://nikkajiweb.jst.go.jp/</a></li> <li>17) NLM Classification.U.S. National Library of Medicine [internet]. <a href="http://www.nlm.nih.gov/class/">http://www.nlm.nih.gov/class/</a></li> <li>18) U.S.National Library of Medicine. Medical Subject Headings Home Page [internet]. <a href="http://www.nlm.nih.gov/mesh/">http://www.nlm.nih.gov/mesh/</a></li> </ol>

科目名	【コア3】 医学資料論
時間	90分
科目概要	ヘルスサイエンス分野の専門家向けの電子版および印刷版の情報資源の体系と、情報ニーズに適した種類と特徴について学ぶ。
到達目標	ヘルスサイエンス分野の専門家の臨床、研究、教育活動と各フェーズで生産され、流通・利用される医学情報資源の特徴と具体的な資料の種類（学会発表抄録、雑誌記事・論文、図書、Web サイト）を理解し、その利用法を習得する。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. よく用いられる日本語および英語の情報資源とその特徴を説明することができる。</li> <li>2. ヘルスサイエンス分野の教育でよく用いられる日本語および英語の情報資源とその特徴を説明することができる。</li> <li>3. ヘルスサイエンス分野における研究に適した情報資源を選択し、検索・入手することができる。</li> <li>4. 重要な情報媒体である医学雑誌の特徴と、インパクトファクターなどの評価指標、オープンアクセス化の状況について理解し、情報サービスで購読契約し提供する雑誌を選定することができる。</li> <li>5. データベースとして提供されている医学情報資源の特徴と利用のしかたを理解し、情報サービスのために選定することができる。（PubMed、EMBASE、BIOSIS、CINAHL など）</li> </ol>
講義内容	<p>A. コミュニケーションの現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床医、研究者間の情報流通のチャンネル（学会や雑誌など）。</li> <li>・学術雑誌の歴史と、学術コミュニケーションの発展の歴史。</li> </ul> <p>B. ヘルスサイエンス学術情報資源の特徴と利用法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次情報、二次情報源の種類と内容、利用法。</li> <li>・電子媒体の情報と紙媒体の情報の特徴と利用上の特質。 （PubMed などの文献データベース、UpToDate などのエビデンスデータベース、今日の診療などの診療ツール、医薬品集などを、必要とニーズによって使い分ける、など）</li> </ul> <p>C. ヘルスサイエンス学術情報資源の評価と選定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者（学生、研究者、臨床医）の情報ニーズにより、提供できる適切な情報媒体を評価し選定する。</li> <li>・情報評価の基準（インパクトファクター、h-index など）。</li> </ul> <p>D. インターネット上の情報の評価と利用法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースの選択。</li> <li>・検索の基本的な手法。</li> <li>・Google Scholar 等の誰でも利用できるデータベース（検索エンジン）の特徴と注意点。</li> </ul>
参考資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 裏田和夫. 専門職への道：医学図書館入門者への学習ガイド. 医学図書館. 1977;24(1,2) : 26-31.</li> <li>2) 山口直比古. 専門職への道：Handbook の切り開いた世界. 医学図書館. 2007;54(1):20-26.</li> <li>3) 山口直比古. Index Medicus の誕生. 医学図書館.</li> </ol>

	<p>1981;28(1):1-10.</p> <p>4) 山口直比古. 忘れられた Index Medicus : MEDLARS への道. 医学図書館. 1989;36(2):54-62.</p> <p>5) 山口直比古. 科学雑誌の誕生: 17 世紀ヨーロッパの科学革命と情報の流通. 薬学図書館. 2010;55(2):156-163.</p> <p>6) Harrison T (小沢元彦訳). ハリソン物語 : かくして「ハリソン」はグローバル・スタンダードになった. 東京: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2003.</p> <p>7) Wakeley PJ, May RS 共編 (津田良成, 菅利信他訳). ヘルスサイエンス図書館員の基礎知識. 東京: 日外アソシエーツ; 1986.</p> <p>8) Morton LT, Godbolt S ed. Information sources in the medical sciences. 3<sup>rd</sup> ed. London: Butterworths; 1984.</p> <p>9) Roper FW, Boorkman JA. Introduction to reference sources in the health sciences. 2<sup>nd</sup> ed. Chicago: Medical Library Association; 1984.</p> <p>10) Cleveland AD, Cleveland DB. The organization of medical knowledge. In: Health informatics for medical librarians. Chicago: Medical Library Association; 2009.</p> <p>11) Kronick DA. The literature of the life sciences: reading, writing, research. Philadelphia: ISI Press; 1985.</p> <p>12) Past, present, and future of biomedical information. Bethesda: National Library of Medicine; 1987. (NIH Publication No.88-2911).</p> <p>13) Blake JB ed. Century of Index Medicus 1879-1979. Bethesda: National Library of Medicine; 1980. (NIH Publication No.80-2068).</p> <p>14) Kronick DA A History of scientific &amp; technical periodicals; the origins and development of the scientific and technical press, 1665-1790. Metuchen, N.J. The Scarecrow Press; 1976.</p> <p>15) Warren KS ed. Coping with the biomedical literature: a primer for the scientist and the clinician. New York: Praeger; 1981.</p>
--	--

科目名	<b>【コア 4】</b> 医学図書館の利用者の特徴とサービス
時間	90 分
科目概要	ヘルスサイエンス分野の学生・研究者のバックグラウンドである医療制度の特徴・課題および医学教育・研究活動と情報サービスについて学ぶ。
到達目標	我が国の保健医療制度についての基本的知識を習得し、その中での医療専門家および医療関係専攻の学生による医学医療情報ニーズおよび情報行動の特徴を踏まえた情報サービスの意味を理解する。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療制度の特徴と課題を理解し、ポイントを説明できる。</li> <li>2. 医学教育制度の概要を理解し、学生の情報行動と医学領域の情報サービスの特性を説明できる。</li> <li>3. ヘルスサイエンス分野の研究の特徴を理解し、研究者の情報行動と情報サービスの特性を説明できる。</li> <li>4. 生命倫理, 医療倫理, 研究倫理の概要を理解し, 倫理指針や著作権等の法的制約について説明できる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. 医療制度概論 [30 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療職の種類(資格)</li> <li>2. 医療職のバックグラウンド</li> <li>3. 我が国の医療および患者の特徴</li> <li>4. 医療費の増加傾向への対策</li> </ol> <p>B. 医学教育制度 [30 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒前・卒後教育カリキュラム</li> <li>2. 海外の医学教育制度</li> <li>3. 海外留学制度</li> <li>4. 教育改革</li> <li>5. 学会認定の医師の種類</li> </ol> <p>C. キャリアパス [5 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師</li> <li>2. 看護師ほか医療職</li> </ol> <p>D. 研究活動 [20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学院制度</li> <li>2. 研究資金の調達</li> <li>3. 研究の種類</li> <li>4. 研究報告</li> <li>5. 生命倫理</li> </ol> <p>E. 利用者行動パターン [5 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生(医学・看護学)</li> <li>2. 教員・研究員・医療職</li> </ol>
参考資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 阿部崇. 日本の医療制度:公的医療保険制度の現状と課題. ニッセイ基礎研 REPORT. 2008;社会保障特集号:28-35. <a href="http://www.nli-research.co.jp/report/report/2008/sp_issue/repo08sp-3.pdf">http://www.nli-research.co.jp/report/report/2008/sp_issue/repo08sp-3.pdf</a> [accessed 2013-09-17]</li> <li>2) 佐藤麻菜, 西方元邦. 医療概論. (新医療秘書医学シリーズ;1). 東京:</li> </ol>

建帛社;2012.

3) 厚生統計協会図説国民衛生の動向 2013/2014. 厚生 の 指標. 2013; 60(9).

4) 島崎謙二. 日本の医療:制度と政策. 東京:東京大学出版会;2011.

5) 長谷川友紀, 長谷川敏彦, 松本邦愛. 医療職のための公衆衛生・社会医学. 第3版. 東京:医学評論社;2012.

6) 水田吉彦. 最新医療制度の基本と仕組みがよ〜くわかる本:医療と介護の課題と医療制度の行方は!. 東京:秀和システム;2012.

7) 柳川洋, 中村好一. 公衆衛生マニュアル. 第31版. 東京:南山堂;2013.

8) モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する連絡調整委員会. 医学教育モデル・コア・カリキュラム:教育内容ガイドライン. 平成22年度改訂版.  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/06/03/1304433\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/06/03/1304433_1.pdf) [accessed 2013-12-16]

9) 福井次矢, 吉田素文. 診療参加型臨床実習の実施のためのガイドライン.  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/06/03/1304433\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/06/03/1304433_2.pdf) [accessed 2013-12-16]

10) 大学基準協会. 医学教育に関する基準. 大学基準協会資料. 2005; 60. [http://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/kijun\\_igaku.pdf](http://www.juaa.or.jp/images/publication/pdf/kijun_igaku.pdf) [accessed 2013-12-16]

11) 日本学術会議基礎医学委員会・臨床医学員会合同医学教育分科会. 提言 我が国の医学教育はいかにあるべきか. 2011.  
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t130-1.pdf> [accessed 2013-12-16]

12) 日本医学教育学会. 医学教育白書 2010年版. (医学教育別冊). 東京:篠原出版新社;2010.

13) 松原茂樹, 大口昭英, 名郷直樹. 臨床研究と論文作成のコツ:読む・研究する・書く. 東京:東京医学社;2011.

14) 浅井隆. 医学研究実施と報告における必須事項クイックリファレンス. 東京:アトムス;2011.

15) 大西純一. 厚生労働省臨床研究に関する倫理指針:これならわかる, 使える. 吹田:メディカ出版;2011.

16) 盛永審一郎, 松島哲久編. 医学生のための生命倫理. 東京:丸善出版;2012.

17) 吉川ひろみ. 保健・医療職のための生命倫理ワークブック:本当によいことなのか, もう一度考えてみよう!!. 東京:三輪書店;2008.

コア 4「医学図書館の利用者の特徴とサービス」  
講義内容

- I バックグラウンド:医療制度概要
1. 医療職についての理解 【必須項目】
    - 1) 医療の定義
    - 2) チーム医療
    - 3) どのような医療職, 資格があるか。
  2. 医療制度の現状と評価の視点 【必須項目】
    - 1) 現状と課題
    - 2) 医療制度を評価する3つの指標  
「コスト」「医療の質」「アクセスの公平性」
    - 3) 医療制度の2つの視点  
「財政」と「供給」の側面からの把握
  3. 医療衛生法規 【必須項目】
    - 1) 医療関係の法律の理解  
「国民健康保険法」「介護保険法」「医療法」「医師法」の理解
  4. 医療費の仕組み(財政の側面) 【必須項目】
    - 1) 診療報酬制度とは
    - 2) レセプト(診療報酬明細書) 請求・支払の流れ
    - 3) 包括支払い制度(DPC)
  5. 我が国の医療保険制度(財政の側面) 【必須項目】
    - 1) 3つの特徴  
「国民皆保険」「保険診療の原則」「診療報酬制度」
    - 2) 課題
  6. 我が国の医療体制(供給の側面) 【必須項目】
    - 1) 特徴
    - 2) 課題
    - 3) 医師養成政策
    - 4) 対策
  7. 医師の偏在(供給の側面) 【必須項目】
    - 1) 要因
    - 2) 対策
  8. 高齢者医療(財政の問題) 【任意項目】
    - 1) 老人福祉法, 法人保健法, 介護保健法, 後期高齢者医療制度
  9. 我が国の患者の特徴(需要の実態) 【必須項目】
    - 1) 特徴
    - 2) 要因
  10. 世界の医療保険制度 【必須項目】
    - 1) 各国の医療保険制度の特徴
  11. 医療政策・制度の評価(WHO) 【任意項目】
  12. 医療費の増加傾向への対策案 【必須項目】
    - 1) 対策案  
「混合診療」「保険免責制」「保険対象者の制限」「高齢者負担率の変更」
    - 2) 課題
  13. これからの医療制度 【任意項目】
    - 1) 方向性を理解する
  14. 参考文献
- II 教育制度
1. 卒前教育ーカリキュラム 【必須項目】
    - 1) 導入教育, 教養教育
    - 2) 専門教育ー準備教育・臨床前専門教育・臨床教育
  2. 卒前教育ー臨床実習開始前資格試験 【必須項目】
    - 1) 共用試験(CBT, OSCE)
  3. 卒前教育ー臨床実習 【必須項目】
    - 1) クリニカルクラークシップー診療参加型臨床実習



4. 医師国家試験 【必須項目】
- 1) 医師国家試験
  - 2) USMLE Step 1/2/3
5. 海外の医学教育制度－3つの類型 【必須項目】
- 1) 我が国のように高校卒業後 18-19 歳で大学医学部に入学し5-7年間(ドイツ, オランダ, ベルギーなど)
  - 2) 4 年生大学を卒業し Medical School で4年間(アメリカ)
  - 3) 1)と 2)の混合(オーストラリア, 韓国など)
6. 留学制度 【任意項目】
- 1) 語学留学, 研究留学, 臨床留学, 奨学金・グラント獲得
7. 医学教育改革 【必須項目】
- 1) 医師
    - (1) 学士入学制度
    - (2) メディカル・スクール構想
    - (3) MD/PhD コース－専門職学位, 学術的学位
    - (4) 講義偏重型授業→問題解決型学習
    - (5) コミュニケーション・態度教育
    - (6) 統合型カリキュラム
    - (7) ファカルティ・ディベロップメント(FD)
  - 2) コ・メディカルスタッフ
8. 卒後教育－卒後臨床研修制度 【必須項目】
- 1) 臨床研修必修化, 病院マッチングシステム, 基本診療科ローテーション
9. 医師の種類－学会認定 【必須項目】
- 1) 指導医, 専門医, 認定医, 標榜医
10. 参考文献
- III キャリアパス 【必須項目】
1. 医師
  2. 看護師ほか医療職
  3. 参考文献
- IV 研究活動
1. 大学院制度－課程博士, 論文博士 【必須項目】
    - 1) 学位論文(機関リポジトリへの登録)
  2. 研究資金の調達 【任意項目】
    - 1) 競争的資金制度－科学技術政策(内閣府)
    - 2) 民間助成団体－助成財団データベース(助成財団センター)
  3. 研究の種類(概略) 【必須項目】
    - 1) 治験, 疫学研究, 臨床試験, 症例報告, 非臨床研究
    - 2) 研究法－介入研究, 観察研究
    - 3) トランスレーショナル研究－T1リサーチ(橋渡し研究, 基礎研究), T2リサーチ
  4. 研究報告 【必須項目】
    - 1) 学会発表
    - 2) 論文投稿－投稿規定(バンクーバースタイル)
    - 3) 著作権
    - 4) 出版倫理－重複投稿・発表・出版, データ捏造・改ざん
    - 5) 研究倫理－倫理指針, ヘルシンキ宣言, 個人情報保護, 利益相反
  5. 生命倫理 【必須項目】
    - 1) 生命倫理の四原則－自律尊重, 無危害, 善行, 正義
    - 2) 主要概念－インフォームド・コンセント, パターナリズム, 倫理委員会, 自己決定, 功利主義, 義務論
    - 3) 諸問題－出生, 死, 臓器移植, 遺伝子
  6. 参考文献
- V 利用者行動パターン 【必須項目】
1. 学生(医学・看護学)
  2. 教員・研究者・医療職
  3. 参考文献

科目名	<b>【コア5】</b> PubMed/医中誌 Web 検索初級
時間	PubMed 100 分, 医中誌 Web 80 分
科目概要	PubMed と医中誌 Web の検索演習
到達目標	医学(保健医療)分野の代表的データベース PubMed と医中誌 Web の基本的な操作と仕組みを理解する
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PubMed と医中誌 Web の概要が説明できる。</li> <li>2. PubMed と医中誌 Web で基本的な検索ができる。</li> <li>3. 自由語検索とシソーラス検索の違いが説明できる。</li> <li>4. 研究デザインの違いを説明できる。</li> <li>5. 論理演算子を用いた検索ができる。</li> <li>6. 文献の入手法を説明できる。</li> <li>7. クイックレファレンス, ILL 業務の書誌事項確認に対応できる。</li> </ol>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>A. PubMed, 医中誌 Web の概要 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 収録範囲・対象</li> <li>2) 更新頻度</li> <li>3) インターフェース</li> </ol> </li> <li>B. 自由語検索 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 簡易な主題からの検索</li> <li>2) 既知事項を組み合わせた検索</li> </ol> </li> <li>C. シソーラス検索 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) シソーラスの概念</li> <li>2) 自動マッピング</li> <li>3) シソーラス参照方法</li> </ol> </li> <li>D. 履歴検索 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 論理演算子</li> <li>2) PubMed Advanced Search Builder</li> </ol> </li> <li>E. 基本的な絞り込み <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究デザイン</li> <li>2) 出版年</li> <li>3) 年齢層・性別・言語</li> </ol> </li> <li>F. 検索結果の見方 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 表示されている情報</li> <li>2) 検索結果の並び替え</li> </ol> </li> <li>G. 検索結果の印刷, メール送信, ダウンロード, クリップボード</li> <li>H. 書誌確認 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Single Citation Matcher・書誌確認画面</li> </ol> </li> <li>I. 収載誌検索</li> <li>J. 文献入手 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 無料の電子ジャーナル</li> <li>2) 所属機関で購読している電子ジャーナル</li> <li>3) 有料の電子ジャーナル (Pay per View)</li> <li>4) 文献複写申込の方法 (NACSIS-ILL, NLM, BL, NDL)</li> </ol> </li> <li>K. 所属機関の契約, 設定環境</li> </ol>

参考資料	<ol style="list-style-type: none"><li>1) 山口直比古. 忘れられた Index Medicus MEDLARS への道. 医学図書館. 1989;36(2):54-62.</li><li>2) 医学中央雑誌刊行会. 創立 100 周年記念誌. 東京:医学中央雑誌刊行会; 2003.</li><li>3) 岩下愛, 山下ユミ. 図解 PubMed の使い方 : インターネットで医学文献を探す. 第 6 版. 東京:日本医学図書館協会; 2013.</li><li>4) 諏訪部直子, 平紀子著. わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド : 検索事例付. 東京:日本医学図書館協会; 2013.</li></ol>
------	---

科目名	<b>【コア 6】</b> 一般市民への医療・健康情報提供
時間	90 分
科目概要	一般市民への医療・健康情報提供
到達目標	患者や一般市民に特有の医療・健康情報ニーズ, 情報行動の特徴と, 情報資源の選択及び提供方法について理解する。
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の患者や一般市民の医療・健康情報ニーズとそれに対応する情報サービスの実態と課題を説明できる。</li> <li>2. 患者や一般市民が用いるヘルスサイエンス分野の用語の特徴を理解し, 質問内容を, 医学用語を使って説明できる。</li> <li>3. 患者や一般市民のリテラシーレベルを, レファレンスインタビューから推測できる(コミュニケーション能力)。</li> <li>4. 患者や一般市民への情報の提供に特有の, 倫理的・法的・社会的問題について理解し, 説明できる。</li> <li>5. 患者や一般市民がよくアクセスしているヘルスサイエンス分野の情報資源の種類(Web サイト, 家庭の医学, 健康情報雑誌, 新聞, テレビ, ラジオ, 医師・看護師・薬剤師, 家族や友人)と特徴について述べるができる。</li> <li>6. 患者や一般市民向けの代表的な情報資源の使い方を説明できる。</li> </ol>
講義内容	<p>A. 医学・健康情報を取り巻く環境[15 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的背景: 医療法, 健康増進法, がん対策基本法, 病院機能評価等</li> <li>2. 図書館の変化: 課題解決型, 地域貢献</li> </ol> <p>B. 情報サービス実施の実態[15 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学図書館</li> <li>2. 患者図書室</li> <li>3. 公共図書館</li> <li>4. 図書館の種類による収集資料の違い</li> </ol> <p>C. 患者や一般市民の医療・健康情報ニーズ[20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. どのような情報が求められているか</li> <li>2. なぜ医療・健康情報を求めるのか <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療情報の非対称性</li> <li>2) ヘルスコミュニケーションの不足</li> </ol> </li> </ol> <p>D. 患者や一般市民がアクセスしている情報の種類と特徴[20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭医学書</li> <li>2. 診療ガイドライン(一般向け/医療者向け)</li> <li>3. 闘病記, 介護記</li> <li>4. 健康雑誌</li> <li>5. 新聞, テレビ, ラジオ</li> <li>6. Web サイト</li> <li>7. パンフレット</li> <li>8. 人(家族, 友人, 医療者)からの情報</li> </ol> <p>E. レファレンス[20 分]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症状・病名等を医学用語に置き換えて, 情報源を利用する</li> </ol>

	<p>2. インタビューおよび情報提供時のポイント</p> <p>1) 相談者のリテラシーレベルを把握する</p> <p>2) 相談者が知りたいことを理解する(バックグラウンド/フォアグラウンド)</p> <p>3) 法的, 倫理的, 社会的問題を理解する</p> <p>3. レフェラルサービス</p>
<p>参考資料</p>	<p>1) 日本医学図書館協会医療・健康情報ワーキンググループ. やってみよう図書館での医療・健康情報サービス. 改訂版. 東京: 日本医学図書館協会; 2013.</p> <p>2) アンドレア・ケニヨン, バーバラ・カシーニ. 公共図書館員のための消費者健康情報ガイド. 東京: 日本図書館協会; 2007.</p> <p>3) 奈良岡功, 山室眞知子, 酒井由紀子. 健康・医学情報を市民へ. (JMLA 叢書; 3). 東京: 日本医学図書館協会; 2004.</p> <p>4) 伊勢美子. 患者が求める医学健康情報. 医学図書館. 1994; 41(3):331-5.</p> <p>5) 山口直比古. 患者図書室における情報提供 患者・医師間における情報の非対称性緩和のために. 医療安全. 2009; 6(4):42-5.</p> <p>6) ヘルスコミュニケーション学会 [internet]. <a href="http://healthcommunication.jp">http://healthcommunication.jp</a> [accessed 2014-02-18]</p> <p>7) 緒方裕光, 諏訪部直子, 磯野威. メディア(図書・雑誌・テレビ)における医学・健康情報流通量調査. 患者/家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究 平成 16 年度 総括・分担研究報告書. 2005: 7-15.</p> <p>8) 緒方裕光, 諏訪部直子, 磯野威. メディア(新聞・ラジオ)における医学・健康情報流通量調査. 患者/家族のための良質な保健医療情報の評価・統合・提供方法に関する調査研究 平成 17 年度 総括・分担研究報告書. 2006: 9-16.</p> <p>9) 河合富士美, 江口愛子, 牛沢典子, 諏訪部直子, 真下美津子, 向田厚子, 山口直比古. 一般市民の医学・医療情報需要調査. 医学図書館. 2002; 49(4): 376-382.</p> <p>10) 石井保志. 闘病記文庫入門: 医療情報資源としての闘病記の提供方法. 東京: 日本図書館協会; 2011.</p> <p>11) Minds[Internet]. <a href="http://minds.jcqhc.or.jp/n/top.php">http://minds.jcqhc.or.jp/n/top.php</a> [accessed 2014-02-18]</p> <p>12) 北澤京子. 患者のための医療情報収集ガイド. (ちくま新書; 789). 東京: 筑摩書房; 2009.</p> <p>13) 日本インターネット医療協議会. インターネット上の医療情報の利用の手引き [Internet]. <a href="http://www.jima.or.jp/userguide1.html">http://www.jima.or.jp/userguide1.html</a> [accessed 2014-02-18]</p> <p>14) 国立国語研究所「病院の言葉」委員会. 病院の言葉を分かりやすく: 工夫の提案. 勁草書房; 2009.</p> <p>15) 患者図書マニュアル編集委員会. 患者医療図書サービス: 医療情報を中心とした患者図書室. 東京: 日本病院図書室研究会; 2004.</p> <p>16) 中山健夫. 健康・医療の情報を読み解く: 健康科学への招待. 東京: 丸善; 2008.</p>

### 3-3. JMLA コア研修 時間割

#### 【案1】

##### 1日目

科目 No	時間	分	科目
※	9:20～ 9:30	10	キャリアプランについて考える
コア4	9:30～11:00	90	医学図書館の利用者の特徴とサービス
コア3	11:10～12:40	90	医学情報資料論
	12:40～13:40	60	昼休み
コア2	13:40～17:00 (休憩 20分含む)	180	医学の学問体系と医学用語の基礎知識

※開会に含める

1日目合計 370分 (6時間 10分)

##### 2日目

コア5	9:30～10:50	80	医中誌 Web 初級
	11:00～12:40	100	PubMed 初級
	12:40～13:40	60	昼休み
コア6	13:40～15:10	90	一般市民への医療・健康情報提供
コア1	15:30～17:00	90	JMLA の活動とヘルスサイエンス情報サービス専門職

2日目合計 360分 (6時間)

#### 【案2】

##### 1日目

科目 No	時間	分	科目
コア1	9:30～11:00	90	JMLA の活動とヘルスサイエンス情報サービス専門職
コア4	11:10～12:40	90	医学図書館の利用者の特徴とサービス
	12:40～13:40	60	昼休み
コア2	13:40～17:00 (休憩 20分含む)	180	医学の学問体系と医学用語の基礎知識

1日目合計 360分 (6時間)

##### 2日目

コア3	9:30～11:00	90	医学情報資料論
コア5	11:10～12:30	80	医中誌 Web 初級
	12:30～13:30	60	昼休み
コア5	13:30～15:10	100	PubMed 初級
コア6	15:30～17:00	90	一般市民への医療・健康情報提供
※	17:00～17:10	10	キャリアプランについて考える

※閉会に含める

2日目合計 370分 (6時間 10分)

## 4. 専門職能力開発プログラム移行計画案

### 4-1. 新教育プログラムを平成 28（2016）年スタートと想定したスケジュール

平 26 年 (2014)	5 月 6 月～	総会で専門職能力開発プログラム最終案を報告し、承認を得る 方針決定、規程整備、移行計画立案、現行教育プログラムとの調整、 JMLA コア研修・研究会・JMLA-CE コース具体案検討スタート
平 27 年 (2015)	1 月 2 月 3 月～4 月 5 月 6 月	新教育プログラム実施計画案決定 実施計画案を理事会に提出し承認を得る 実施計画の総会報告用資料を作成 総会で報告し、承認を得る JMLA コア研修 WG/実行委員会発足
平 28 年 (2016)	5 月  8 月 11 月	総会 研究会開催 JMLA コア研修（基礎研修会の後継研修プログラム）開催 JMLA-CE コース開催
平 29 年 (2017)	1 月	新認定資格制度スタート

### 4-2. 体制

移行および運用の体制について以下を提案する。

- ・ 総会
  - 最終決定
- ・ 理事会
  - 方針決定
  - 必要な組織体制づくり
- ・ 教育・研究委員会
  - 関連の規程改訂
  - JMLA コア研修の運用体制の検討と提案
  - JMLA コア研修実施のためのワーキンググループづくり
  - JMLA-CE コースの運用体制の検討と提案
  - JMLA 新研究会の運用体制の検討と提案
- ・ 認定資格運営委員会
  - 関連の規程改訂
  - 新認定制度の運用
  - モデル活動の維持

## 5. 活動と検討の経緯

平成 20 年 1 月	評議員会答申が提出され、以下が指摘される
6 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機会の格差是正が必要</li> <li>・専門職として必要な知識、技能の範囲を明示し、計画的な教育プログラムの策定と人材育成を行うことが必要</li> </ul> <p>上記の課題に取り組むため、臨時合同委員会*発足          ※教育担当理事、認定資格運営委員会および教育・研究委員会の委員長からなる合同委員会。</p>
平成 21 年 7 月	専門職能力開発プログラムへの期待を聴取（第 80 回総会分科会）
平成 22 年 2 月	以下の目的でアンケート調査実施
5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状とニーズを把握</li> <li>・ヘルスサイエンス情報の専門職に必要な知識とスキルを同定</li> </ul> <p>アンケート調査結果報告（第 81 回総会）          調査結果をふまえ、5つの提言を発表（第 81 回総会分科会）          (1)保健・医療分野の情報専門職に必要な知識とスキルを定める。          (2)現行の教育プログラムの内容やレベルを多様なニーズに合わせて精査する。          (3)研修機会提供の拡大に努める。          (4)教育プログラムの改訂を前提とした認定資格制度の要件見直しを行う。          (5)統合的な専門職能力開発プログラムを構造化し提示する。</p>
6 月	専門職能力開発プログラム推進委員会発足（2年間の臨時委員会）
平成 23 年 9 月	専門職能力開発プログラム案を発表（第 82 回総会分科会）
10 月	各地区会に専門職能力開発プログラム案に対する意見募集開始
11 月	広く意見を集めるために Web 掲示板を設置
平成 24 年 2 月	「医学図書館員のための基礎知識講座」開催（北里大学白金） 有識者懇談会開催（聖路加医）
6 月	専門職能力開発委員会発足（2年間の臨時委員会）
平成 25 年 2 月	専門職能力開発プログラム・カリキュラム策定有識者会議開催（慶大医） 第 1 回 2 月 14 日 第 2 回 2 月 26 日
5 月	専門職能力開発プログラム案発表（第 84 回総会オープンフォーラム）
7 月	JMLA コア研修シラバス検討 WG 開催（第 1 回）
平成 26 年 1 月	JMLA コア研修シラバス検討 WG 開催（最終）
5 月	専門職能力開発プログラム最終報告書（提案）提出（第 85 回総会）



## 6. 資料

### 6-1 意見への対応・回答

専門職能力開発プログラムの策定は、これまでの研修プログラム、認定資格制度の枠組み変更を伴う大がかりなものなので、慎重に行う必要がある。そのため専門職能力開発委員会では、平成23年より、地区会への説明、掲示板の設置、総会分科会やオープンフォーラム、有識者会議、シラバス検討ワーキンググループ会議など、様々な機会に関係者からの意見をうかがい、対応を検討してきた。以下はその記録である。ただし後者2つの会議で出た意見は大部になるため省略する。

#### (1) プログラム案全体について

日付	発言者	機会	意見の趣旨	対応・回答
'11/12/20	教員	個別	「コンピテンシー」の見出しは正確ではない。本来の「コンピテンシー」は持っている知識スキルを活かせる深層的な能力のこと。現在のものは知識とスキルを表層的な行動で言い換えているだけ。図書館情報学関係の報告書はすべて間違い。	「モデル活動」という見出しに変更している。ほかに「何ができるか」を示すのに良い見出しがあれば、ご提案いただきたい。
'12/07/09	教員	個別	分野D「ビジネススキル」の領域の最後の「個人の資質」は向上できないのでおかしい。いわゆるビジネススキルにあたる領域では？	分野Dを「ビジネス遂行能力」とし、領域⑨を習得・向上が不可能ないわゆるビジネススキルに相当する「マネジメントスキル」に、領域⑩を習得・向上が難しい「個人の特性」に変更した。
'11/12/20	教員	個別	1.プログラム実現にあたって、少なくとも研修に医学の教員をまきこむ必要はあるだろう。2.利用者からの評価も必要ではないか。	1.2012年2月に試行的に実施した「医学の基礎知識講座」では医学部教員に講師を務めてもらった。新カリキュラムの企画でどのような方を講師に依頼するかも検討する。2.利用者からサービスに対する評価はもらえても、個別の図書館員に対する評価を正確に得るのは難しいので、本プログラムには取り入れないこととする。
'11/12/22	教員	掲示板	「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について」(平成21年2月)の報告でも指摘されている、図書館の専門的職員の「図書館に就職した後の研修や自己研鑽」に積極的に活用できるような配慮をお願いしたい。	「就職後の研修、自己研鑽」を前提として、ヘルスサイエンス分野の情報サービスのために必要な、標準的な継続教育のカリキュラムを提案する予定。

'11/12/31	研究機関図書館員	掲示板	「図書館の専門的職員の図書館に就職した後の研修や自己研鑽」ということと「委託さんや派遣さん」という雇用条件の司書の現実とが、どのように関連するのかわからない。プログラム案は「正職員のサバイバル策」に見えるが、非正規化が進んだ現実ではそのような序列形成プランはナンセンスである。研究職や総合病院勤務医の非正規雇用も進んでいるので、司書の社会的な位置を学者や医師のレベルにできるだけ近づける、という方向性にも残念ながらかなり閉塞感を感じる。日本の経済状況・社会状況の行く末をどのように推測するのか、その中で、どんな内容・規模の職業を確立しようとするのか、というビジョンを示した上でのプログラム案でない議論のしようがない。	雇用形態にかかわらず、自己研鑽を勧めることで実力をつけ、社会的に認められる研修や認定制度を立案する予定である。内容についてはモデル活動で示していく。
'12/01/06	研究機関図書館員	メーリングリスト	正職員司書やヘルスサイエンス情報専門員●級だとかの人たちによるネット上での議論が成立しないなら、専門職能力開発プログラムという事業のニーズはどの程度か疑問。	ネット上での議論がなければニーズがないとは考えていない。
'12/02/23	大学医学図書館員	有識者会合	レベル II のモデル活動は目標が高すぎると言う声はないか？	高度であるという声はあるが、歓迎する声もある。委員会では目標は高い方が良いと判断している
'11/12/16	大学医学図書館員	掲示板	このプログラムは、利用者と日々向き合っている司書のためではなく、大学院の博士課程のものという感じ。事務所の奥にいる人よりも、カウンターで日々利用者と接している委託や派遣のスタッフが中級や上級を取れるプログラムが必要。	日々利用者と向き合っているだけで中級、上級をとれるプログラムは考えていない。環境の変化に対応した、より高度なサービスを提供するための自己研鑽を推奨するプログラムを想定している。能力はあっても機会にめぐまれない場合も多いので、モデル活動はなるべく多様なものを提示する予定。
'12/01/06	研究機関図書館員	メーリングリスト	実行が困難なため、盛り込まなかった学習テーマにはどんなことがあるのか、開示すべき	汎用性が高い知識・スキル、特にビジネススキルのみを対象とした研修は外部にもあり、本会であえて実施しない方向で検討している。
'12/01/06	研究機関図書館員	メーリングリスト	意見を聞く以上は、出された意見には、その内容に対して立案チームとしての見解を出すべき	今回、対応・回答を公開している。組織が大きいため、正式見解として公表するために時間がかかることはご容赦いただきたい。
'12/01/20	教員	関東地区会	プログラム案は細かすぎて読めないし構造がわからない。コメントすべきは趣旨なのか詳細なのか。何が変わるのかもわからない。たとえば、どんな人がどんなことをしていけばステップアップできるのか、認定を受けられるのかを示してくれないと全然	簡易版を作成して2012年5月の総会資料に提案として掲載している。認定のステップについては別途資料を検討する。

			わからない。	
'12/01/20	大学図書館員	関東地区会	これは決定ですか？たとえば2-3年後に見直しするとか、時代の情勢に合わせた対応が必要ではないでしょうか？	知識・スキルの種類については、アンケート調査の結果なので一定の合意が得られていると考えている。教育プログラムおよび新認定制度についてはまだ検討中である。定期的な見直しについては提案に含めたい。
13/5/13	大学医学図書館員	第83回総会後	機関リポジトリ構築を検討中だが、事務との連携業務となる。プログラムにも掲載されている項目なので、事務にこのプログラムをみせたいと思っている。	以下のツールとしても使えることを意識したい ・医学図書館員の業務の範囲と専門性を組織にアピール ・他部署との連携実現 ・組織管理
13/5/13	大学医学図書館員	第83回総会後	大学の下部組織として、当館では、何が求められ、何に重点を置かれているのか、このプログラムを自分なりに、優先順位？をつけて整理してみたいと思いました。（できれば、当館の研修(派遣職員を含めた)や目標管理にも活用させていただきたいです)	
13/5/31	大学医学図書館員		一定の地位についていないと実現できないスキルをどう扱うべきか？	例示したすべてのことができることを期待しているのではないので、選択肢の一つとして考えていただきたい。選択肢は今後増やしていく予定である。

## (2) 本会の研修について

日付	発言者	機会	意見の趣旨	対応・回答
'10/05/29	教員	第81回総会分科会	人を対象とする仕事にはコミュニケーション能力が必要。医師や薬剤師のOSCEのような試験で計ることができなければ、JMLAでコミュニケーションあるいはレファレンスインタビューの研修会を実施し、それを認定のポイントとして取り入れてはどうだろうか。実践でのトレーニングと組み合わせても良い。	汎用的なコミュニケーション能力のみの研修を、当協会で独自に提供することは考えていない。
'10/05/29	教員	第81回総会分科会	KMLAから紹介のあった「循環教育」はアメリカのモデルとして存在し実践したことがある。何も知らないよりも、知っている人に聞く、ということでは良い制度だと思うのでJMLAでも可能性を探って欲しい。提言にも出ているが、メンター制、インターンシップなどが使える。	メンター制度、インターン制度については今後検討する
'11/09/10	病院図書館員	第82回総会分科会	非常勤で、実際の上司は病院長で放置されている状況。認定資格制度は良いとは思いますが、実際には難しく感じる。日本医学図書館協会、あるいは病院部会で検討してもらっても良	メンター制度による対応も含め、今後検討する。

			いが、ニーズがあれば、救済措置ということでビギナーに講義をしてもらいたい。	
'11/09/10	大学医学図書館員	第 82 回総会分科会	認定資格制度はポイント制は継続される上に、医学論文を読めてレビューができるというようなかなり高度なコンピテンシーが求められているが、基礎研修会、研究会、継続教育コース以外にプログラムを提供するのか？	上級向けの別プログラムの新設は現在のところ俎上にない。今後検討する。
'11/09/14	教育・研究委員会	会合	1.病院図書館員向けの選択科目があるといいのではないか。病院部会と連携したらできるかもしれない。2.地区会の研修会も、カリキュラムに沿ったものであれば、それを必須や選択科目単位として認めるようにしてはどうか。参加者には機会が増え、委員会では負担が減る。	1.たとえば臨床医に特化したサービスの研修などは考えられる。2.地区会でも標準的な研修を実施していただけるよう、シラバスを作成する予定。
'11/12/13	病院図書館員	会合	1. 病院図書室など小規模図書室を対象にした医学図書館実地研修プログラムの実施、たとえば医学図書館短期留学(1カ月)、短期研修(1週間)、業務研修(業務限定1日)、(*医学図書館から病院図書室への短期研修も意義のある試み) 2.医学・看護学関連の学会/研究会への参加・発表を奨励する。資格認定にも反映させる。3.ビジネス分野の講師を招いて広報能力を要請するプログラムを実施する。たとえばプレゼンテーション、広報誌・HPの作成、ポスター・サインの作成 4.将来、医学図書館員がコメディカルスタッフの一員として認知され、専門学校(大学)で養成されるようになる。社会的要請が高まればそういう可能性もあろうか。	1.メンター制、インターン制については今後検討する。2.モデル活動の中へ図書館・情報学関係以外に「医学・関連分野の学会参加」も取り入れる。3.汎用性の高い知識・スキル、特にビジネススキルについて、本会で独自の研修は考えていない。4.大学との連携は今後の課題として視野に入れたい。
'11/12/16	大学医学図書館員	掲示板	医学図書館員の能力の良し悪しは、突き詰めたところ PubMed と医中誌の検索能力。検索練習問題を作り、各地で何度も何度も検索講習会を開き、何回以上参加か講師をするのを必須としたらどうか？併せて、利用者が求めている質問を的確に聞き出すための能力開発プログラムが必要	PubMed/医中誌 Web の検索の中・上級研修は、すでに実施されている。個別に認定の要件とするかは検討したい。レファレンスインタビューの演習についても新カリキュラムの中で検討したい。
'11/12/16	大学医学図書館員	掲示板	英検やビジネス検定を取るのが厳しい。TOEIC は英語による発表には必要だが、その前に医学用語の理解の方が大事。シン研で MeSH の新語を翻訳するのも良い。	プログラム案中の英検、ビジネス検定、TOEIC はあくまでも例示。また英語以外は認定の要件としない方向で検討している。
'11/12/16	大学医学図書館員	掲示板	マネジメント能力＝職場の階級ではないか	能力があっても機会がない人もいるので、そのようには考えていない。認定の要件にマネジメント能力を独立してに含めるかは検討中である。

'12/01/06	大学医学図書館員	掲示板	医学図書館員としての専門性の中でも、医学関連文献データベースの検索法の理解が重要。「データベース作成」という項目もあるが、索引法や索引語と検索語の関連とか、つまり「情報検索」一般についての部分が少し弱い。大学の図書館情報学の課程で学習する事柄だが、その機会を持つことができなかつた方も多い。 <b>MEDLARS</b> が出来上がってきた過程から、索引方法の研究が行われ、シソーラスとしての <b>MeSH</b> が形成される過程を理解することは、優れた検索にも繋がる。	新カリキュラムの科目として検討する
'12/02/23	医師	有識者会合	最も大切なのはシラバスをきちんと作ること。教える候補者に集ってもらい、何を教えるか、どうやって教えるかを話し合ってもらうことから始める。	委員以外の有識者等に協力を依頼し、まず科目を、次いで科目内容を決めていきたいと考えている。
'12/02/23	医師	有識者会合	<b>EBM</b> コンテストというのがある。提示されたシナリオに対してエビデンスをみつけて対処を提案するというもの。研修でも使える手法。	新カリキュラムの科目として検討する
'12/02/23	教員	有識者会合	研修は教える人を教えることから始める。何を教えるか、図書館・情報学については委員会で目標を定めて講師に依頼した方が良い。	委員以外の有識者等の会議でも委員会の意向を伝えて議論をすすめてもらうよう企画する
13/5/30	大学医学図書館員	第 83 回総会后	「医学の基礎を学ぶ」@北里大学のような研修会がもっと開催されたいのにと思っていた。	<b>JMLA</b> コアで、医学図書館員の業務に結びつけられる医学知識の科目を作る
13/5/30	大学医学図書館員	第 83 回総会后	基礎研の実行委員の経験からの意見ですが、研修の内容にもよりますが、グループ討議形式もあるとよいと思いました。医学図書館員としての専門能力とは直接結びつきませんが、意見を出し合いまとめるという協同作業も、人との調和やリーダー性の向上になると思います。また、講義形式より、一緒に何かを行うのは、参加者同士の繋がりが強くなると思います。	<b>JMLA</b> コアでは、グループ討議を必修としていないが、各科目の講師の裁量で、グループ討議の時間を設けることも可能とする。

13/6/12	大学医学図書館員	メール	<p><b>JMLA コアについて</b></p> <p>第 84 回通常総会オープンフォーラム時に例としてあげられたように、当面は開催地区を固定して(関東地区が最有力?)開催することを希望します。</p> <p>新制度の運用が軌道に乗った後は、地区会での実施も考慮しているようですが、現在の8地区会体制を見直し、再編すべきだと思います。加盟館数の少ない北海道地区会、東北地区会、北信越地区会、九州・沖縄地区会を近接の地区会に吸収合併し、地区会数を集約してはどうでしょうか。現在の8地区会体制を基本にした JMLA の活動は、数十年前、各大学に正職員が多数いた時代の考え方です。九州・沖縄地区では、過去 10 年間の傾向および今度の動向を見ると確実に下記の方向に向かっていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟館数の減少</li> <li>・大学経営の効率化優先による図書館職員のパート化、嘱託化、図書館業務の委託化</li> <li>・総合大学の場合、分館から中央図書館へ、管理業務及び職員の集中化</li> </ul> <p>    * 医学図書館は分館なので、職員減になる予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学図書館の管理職として司書無資格者(図書系の管理職ではない人)の着任</li> </ul> <p>    * 「地区会が JMLA が期待するレベルの責任を果たす」ことが困難な状況になっています。</p>	地区会の状況と運営については、理事会にて検討を要する。
---------	----------	-----	---	-----------------------------

### (3) 認定資格制度について

日付	発言者	機会	意見の趣旨	対応・回答
'09/05/25	教員	第 80 回総会分科会	司書の地位向上と認定がリンクしているのはおかしい。認定はあくまでも個人の知識・技量を会(本会)が対外的に評価するもの。地位向上は組織の問題。	「ヘルスサイエンス情報専門職」のもともとの理念が専門職能力の向上の支援であることは、広報でもうたっている
'11/08/29	大学医学図書館員	個別意見	3 回目で上級資格が永年になるようにならないか。転勤のある大学ではポイント取得が難しい。15 年上級をやっているだけで十分ではないか。	上級に期待されるような現行の環境に合わせた高度なサービスを提供するには、継続的なブラッシュアップやアップデートが必要。したがって更新と最近のポイントを要件とするのは認定資格制度の趣旨にかなっている。

'11/09/10	病院図書館員	第 82 回総会分科会	認定資格の申請で、ビジネススキルについては上司等の推薦を検討しているとのことだった。病院図書室はノンパーソンライブラリーが多く、自分の業務を知らない病院の総務課長等からしか推薦をもらえないので不都合である。	上司の推薦を求めない方法を検討する
'11/09/12	元病院図書館員	第 82 回総会分科会	対外的にアピールできる資格名称にしてやるのが、資格を授与する側の配慮。「基礎」とか「初級」という名称は、対外的には「上級ではない」「素人に近い」という意味になってしまう。	当初「初級」だったが、更新しないと初級に戻ると印象を与えてしまうことから、基礎的な知識・スキルは保持しているという意味で「基礎」に変更した。ほかに良い名称もなく、基礎だけ種類がないのはわかりにくい。種類を入れずに「ヘルスサイエンス情報専門員」のみ記載する方法も取得者向けの広報でも知らせている。
'11/09/14	認定資格運営委員会	会合	認定審査は事務的なポイント数や書類のチェックならできるが、追加を検討しているコンピテンシー部分の実績を審査するには現在の認定資格運営委員会では難しい。	できるだけ簡易な審査方法を検討するが、必要であれば別途審査委員会を設けることも考えられる。
'12/02/23	医師	有識者会合	モデル活動の中身は「能力」と「役割」が混在している。認定は能力に対して行われるべき。能力があってもここに書かれているような役割が求められない職場では機会がなく発揮できない人もいる。	一定の「能力」があることを確認するためには試験をするか、実績を示してもらうしかない。そのためにモデル活動に「役割」が含まれる。また、認定では全ての「役割」を果たしていることを要件とはしない。
'12/02/23	医師	有識者会合	試験の実施についてはみなさんにおまかせするが、実施は相当な労力がかかる。	認定制度の創設時にも議論があった。運用に大きな労力がかかるので現行と同様の自己申告制で企画したい。
13/5/29	大学医学図書館員	メール	TOEIC はハードルが高いが、通常業務、EJ/DB 契約で英文契約書を理解する必要もあるので、やっぱり勉強しなければと思う。	英語を学ぶ努力も必要と考える
13/5/29	大学医学図書館員	メール	TOEIC が必須か、同等レベルがあれば OK かは、英語の壁が高い人にとっては結構ちがう。	
13/5/31	大学医学図書館員	メール	認定資格運営委員会として、事業計画案に記載のある、「事業体制と、申請・審査方法を提案する。」という作業を遂行するには、いつ頃・どのように進めることになるのでしょうか？	※移行案を理事会で懇談後に最終報告書に提案を含める予定
13/5/31	大学医学図書館員	メール	制度移行の前に、現在の上級・中級取得者を対象に、「専門職能力開発プログラム案」について実態調査をすると、意見を集められるかと思いました。	※2010年2月にすでに調査を実施しているので改めては行わない
13/5/31	大学医学図書館員	メール	英語スキルだけ必須は、妥当なのか？現状では、スキルの該当数 3 か 6 に関わらず、英語のスコアのみでレベル 1 と 2 が左右されるような印象を受けます。	※今後の発展的業務を行っていくために英語は必須と考えます。

13/5/31	大学医学図書館員	メール	他の資格・検定を要件とすることについて、委員会が個人の資質を審査することは難しいので、審査の簡素化にはよいと思うのですが、申請者の立場に立つと、経済的・時間的な負担がかなり大きくなります。申請者数に影響するかと思います。	代替となる要件の検討も必要だが、このまま運用開始し、状況を見ながら修正することもありうる。
13/6/27	病院図書館員	メール	中級・上級の英語の能力証明について全般にはよく検討されていて素晴らしいプログラムだと感服しております。ただ、中級・上級の英語能力証明を必須としたことは賛成できません。「このぐらいの能力が必要」ということで提示することはよいと思いますが必須とすると申請者が大きく減ることが懸念されます。(特に上級) ご再考いただけると幸いです。よろしくお願いたします。	※今後の発展的業務を行っていくために英語は必須と考えます。現在は中級が少なくかたよった割合となっており(基礎 227名、中級 23名、上級 57名、計 307名)、上級の中で差別化も必要ではないかと考えています。また、国際連携のための国際交流委員会での委員不足をみても期待される人材と考えます。

## 6-2. 委員・協力者一覧（所属は就任当時）

(1)教育・研究、認定資格事業の連携に関する合同会議(平成 20 年 10 月～平成 22 年 5 月)

理事：平紀子（北医療大）、小野澤繁雄（埼玉大）、小川禮子（女学大）、

委員：酒井由紀子（慶大医、認定資格運営委員会委員長）、諏訪部直子（杏大医、教育・研究委員会委員長）

(2) 専門職能力開発プログラム推進委員会（平成 22 年 6 月～平成 24 年 5 月）

理事：平紀子（北医療大）、磯野威（科学院）

委員：諏訪部直子（杏大医、委員長）、酒井由紀子（慶大医）

(3) 専門職能力開発委員会（平成 24 年 6 月～平成 26 年 5 月）

理事：酒井由紀子（慶大医）、

委員：諏訪部直子（杏大医、委員長）、佐山暁子（東邦大医）

(4)有識者会議

平成 24 年 2 月 23 日

有識者：福井次矢（会長、聖路加医）、野添篤毅（個人、愛知淑徳大学）

理事：坪内政義（愛医大）、磯野威（個人）

委員：諏訪部直子（杏大医）、酒井由紀子（慶大医）

平成 25 年 2 月 14 日

有識者：今田敬子（国医福大）、河合富士美（聖路加医）、佐藤淑子（東女医大）、

坪内政義（愛医大）、野添篤毅（個人）、村上健治（滋医大）、山口直比古（個人）

委員会：酒井由紀子(慶大医)、諏訪部直子（杏大医）、佐山暁子（東邦大医）

平成 25 年 2 月 26 日

有識者：大瀬戸貴己（奈医大）、大谷裕（東邦大医）、加藤砂織（東女大医）、

川崎かおる（岩医大）、城山泰彦（順大）、小嶋智美（個人）、

西さやか（東医大）、橋本香織（慈恵大）、松本直子（聖路加看大）

委員会：酒井由紀子(慶大医)、諏訪部直子（杏大医）、佐山暁子（東邦大医）

(5)コア研修シラバス検討ワーキンググループ

坪内政義（愛医大）、酒井由紀子（個人）、阿部信一（慈恵大）、小嶋智美（個人）、

山田久夫（個人）、山口直比古（個人）、鈴木孝明（奈医大）、南 泰樹（聖マ医）、



笹谷裕子 (杏大医)、市川美智子 (愛医大)、岡田信恵 (藤田学園図)

(6)総会分科会

平成 21 年 7 月 6 日 第 80 回

座長 小野澤繁雄(埼玉医)  
話題提供 酒井由紀子(慶大医)  
永江学(聖マリ)  
諏訪部直子(杏林医)  
志茂淳子(和歌山県立医科大学図書館三葛館)

平成 22 年 5 月 29 日 第 81 回

座長 時実象一(個人、愛知大学)  
話題提供 酒井由紀子(慶大医)  
李秀貞(KMLA)  
竹内比呂也(千葉大学)

平成 23 年 9 月 10 日 第 82 回

座長 野添篤毅(個人、愛知淑徳大学)  
話題提供 岩隈道洋(杏林大学総合政策学部)  
秋本敏(ふじみ野市立上福岡図書館)  
諏訪部直子(杏大医)

6-3. 著作・記録

- 1) 諏訪部直子, 酒井由紀子, 平紀子, 磯野威. 特定非営利活動法人日本医学図書館協会における専門職能力開発. 医学図書館 2010; 57(4): 412-6.
- 2) 第 80 回特定非営利法人 日本医学図書館協会総会 分科会 C ヘルスサイエンス情報のプロ育成と発展のために[internet]. (会員限定)  
[http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/sokai/80th\\_sokai/80program2.html](http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/sokai/80th_sokai/80program2.html)
- 3) 村瀬由紀子. 分科会 C「ヘルスサイエンス情報のプロ育成と発展のために」参加報告 (JMLA 活動報告 第 80 回 NPO 法人日本医学図書館協会総会). 医学図書館 2009;56(4):340-342.
- 4) 第 81 回特定非営利法人 日本医学図書館協会総会 分科会 B 医学図書館員の専門性とキャリア育成[internet]. (会員限定)  
[http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/sokai/81st\\_sokai/81sokai/bunkakai\\_b.pdf](http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/sokai/81st_sokai/81sokai/bunkakai_b.pdf)
- 5) 山田有希子. 分科会 B「医学図書館員の専門性とキャリア育成」参加報告 (JMLA 活動報告 第 81 回 NPO 法人日本医学図書館協会総会). 医学図書館 2010;57(4):403-405.
- 6) 第 82 回特定非営利法人 日本医学図書館協会総会分科会 分科会 B 専門分野の図書館員の能力開発プログラムは今[internet]. (会員限定)  
[http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/sokai/82nd\\_sokai/bunkakai\\_program2.pdf](http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/sokai/82nd_sokai/bunkakai_program2.pdf)
- 7) 広瀬祥子. 分科会 B「専門分野の図書館員の能力開発プログラムは今」参加報告 (JMLA 活動報告 第 82 回 NPO 法人日本医学図書館協会総会分科会). 医学図書館. 2011;58(4):317-320.
- 8) 第 83 回特定非営利法人 日本医学図書館協会総会分科会 オープンフォーラム 2 専門職能力開発プログラム[internet]. (会員限定)  
[http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/sokai/84th\\_sokai/84sokai/open\\_forum2.pdf](http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/sokai/84th_sokai/84sokai/open_forum2.pdf)

特定非営利活動法人日本医学図書館協会  
専門職能力開発プログラム最終報告書（提案）

発行日 平成 26 年 3 月 31 日

編集 特定非営利活動法人日本医学図書館協会 専門職能力開発委員会

発行 特定非営利活動法人日本医学図書館協会

印刷 株式会社三友社